

G空間EXPO2017 開催報告書

平成30年4月
G空間EXPO2017 運営協議会

目次

1. 開催概要	2
2. オープニングセレモニー	8
3. G空間EXPOメッセージゾーン	12
4. 地理空間情報フォーラム	20
5. Geoアクティビティコンテスト	46
6. Geoエデュケーションプログラム	56
7. 講演・シンポジウム	64
8. その他（広報等）	80
付録1 来場者アンケート	88
付録2 開催実績	96

1. 開催概要

G空間EXPO2017 運営協議会

開催概要

■ 開催概要

G空間EXPO2017 来場者数等

	10/12 木	10/13 金	10/14 土	合計
1 Fシンボルゾーン・ゲート 通過者数 (=来場者数)	6,456	6,760	7,234	20,450名

- ・ ゲート通過者数については、ゲートに設置したカウンターで算出した数値です。
- ・ 各々の来場者数の重複等については考慮しておりません。

名 称 G空間EXPO2017 Geospatial EXPO 2017 Japan

開催期間 平成29年10月12日(木)、13日(金)、14日(土) 10 : 00～17 : 00

会 場 日本科学未来館（東京都江東区青海2丁目3-6）

対 象 児童生徒から社会人まで幅広い層 / 入場料 無料

主 催 G空間EXPO2017運営協議会

公益社団法人日本測量協会、一般社団法人全国測量設計業協会連合会、
一般社団法人日本測量機器工業会、公益財団法人日本測量調査技術協会、
一般財団法人衛星測位利用推進センター、gコンテンツ流通推進協議会、
一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会、一般社団法人地理情報システム学会、
内閣官房、内閣府宇宙開発戦略推進事務局、国土交通省国土政策局、
国土交通省国土地理院、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、

共 催 国立研究開発法人科学技術振興機構日本科学未来館、
一般社団法人東京臨海副都心まちづくり協議会

公式Webサイト <http://www.g-expo.jp/>

統一テーマ・タイトルロゴ

■ 統一テーマ

「地理空間情報科学で未来をつくる」

G空間EXPOは、2013年度より日本科学未来館で開催されたこと受け、日本科学未来館内で取りあげられている「空間情報科学」と、G空間を表現する「地理」とを組み合わせた「地理空間情報科学」をキーワードに、「地理空間情報科学で未来をつくる」を統一テーマとして開催している。

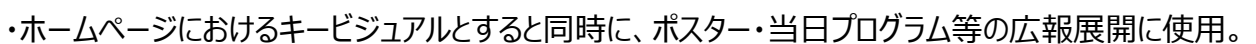
統一テーマは、各主催者が実施する展示・特設ステージ、講演・シンポジウム、研修・体験イベント等において、来場者へ向けたメッセージを包括するものとして設定され、各主催者はこの統一テーマに基づき「見える」「聴ける」「触れられる」イベントを構成した。

また、統一テーマは、G空間EXPO タイトルロゴとともに表記し、チラシやポスター、Webサイトなど、G空間EXPO を象徴するものとして露出されたため、2017年度においても引き続き同テーマを使用することで、イベントの継続開催をアピールするとともに、G空間EXPO のキーメッセージとしての定着化を図った。

■ タイトルロゴ



■ キービジュアル



開催構成

■ G空間EXPOメッセージゾーン

【主催者：G空間EXPO2017運営協議会】

- ・「G空間社会って何?」という疑問に回答するため、G空間EXPOへの入口という場所で、私たちの身近にある地理空間情報などをご紹介しますとともに、G空間社会の成り立ちについて分かりやすく説明。
- ・メインステージにおけるステージプログラムにおいては、G空間社会を牽引するプレーヤーの方々による地理空間情報活用の今日についての講演を実施。

■ 地理空間情報フォーラム

【主催者：（公社）日本測量協会、（一社）全国測量設計業協会連合会、
（一社）日本測量機器工業会、（公財）日本測量調査技術協会】

- ・企業・団体・機関等の展示・体験イベント等により、日本のG空間社会を支える最先端の技術やサービス等を紹介。
- ・出展各者による高度で専門的な展示を通じ、G空間社会についてもっと知りたいといった一般の方々や、情報収集を目的としたビジネス層のニーズに対応。

■ Geoアクティビティコンテスト

【主催者：国土交通省（国土政策局・国土地理院）】

- ・G空間情報に関する独創的なアイデア、ユニークな製品、画期的な技術等を持つ中小・ベンチャー企業、大学関係者、NPO法人等による展示やプレゼンテーションの機会を提供し、関係者間の交流を促進。
- ・展示やプレゼンテーションを行うプレゼンターは一般公募し、選考の上決定。
- ・プレゼンターによる、会場においてアイデアや製品等の展示やプレゼンテーションを実施。
- ・プレゼンテーションについては審査員による審査を行い、優秀な作品については表彰を実施。

■ 地理空間情報フォーラム

【主催者：国土交通省（国土政策局）、一般社団法人地理情報システム学会】

- ・12日、13日においては地理空間情報活用の実地についての講習やグループ討議を行う研修プログラム（12日は自治体関係者向け研修、13日は教育関係者向け研修）を実施。
- ・14日においては、G空間情報に馴染みのない方も楽しめる講演や屋外巡検など、G空間情報を楽しんで学べるプログラムを実施。

■ 講演・シンポジウム

【主催者：G空間EXPO2017 運営協議会】

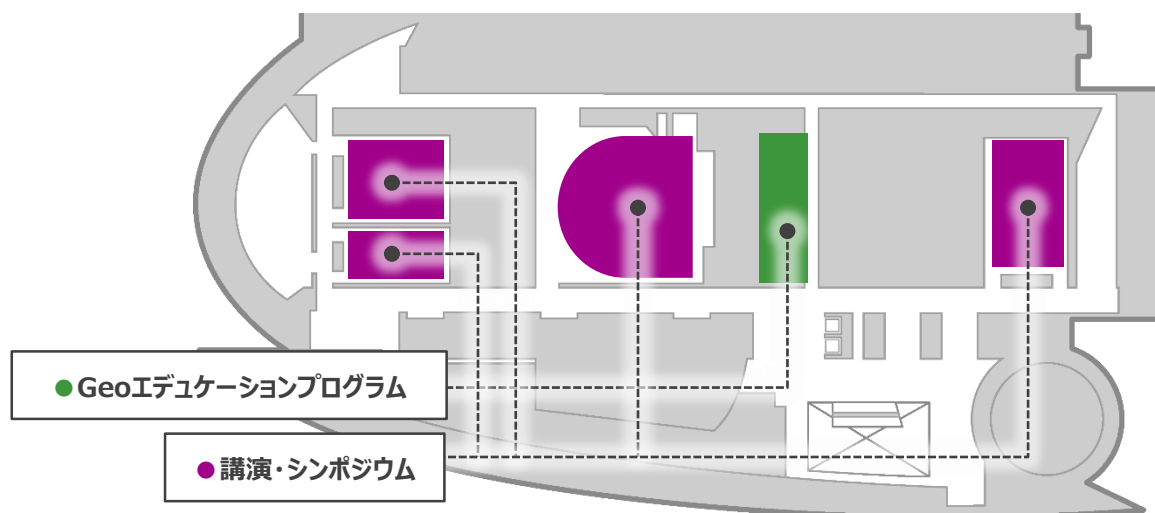
- ・G空間社会への理解を深めるための講演・シンポジウムから、G空間社会を支える最新情報や研究成果発表、業界・技術動向の紹介など、関係各団体によりさまざまなプログラムを実施。

開催構成（会場平面）

1階



7階



2. オープニングセレモニー

主催：G空間EXPO2017 運営協議会

オープニングセレモニー

期日 平成29年10月12日（木） 10：00～10：20

会場 日本科学未来館 1F メインステージ

開会式次第

・主催者・来賓挨拶	10:00～
・テープカット	10:15～

【挨拶】

国土交通省	秋元 司 副大臣
日本科学未来館	毛利 衛 館長
(公社) 日本測量協会	矢口 彰 会長
(一財) 衛星測位利用推進センター	岡部 篤行 理事長

【テープカット】

国土交通省	秋元 司 副大臣
日本科学未来館	毛利 衛 館長
(公社) 日本測量協会	矢口 彰 会長
(一財) 衛星測位利用推進センター	岡部 篤行 理事長
(一社) 地理情報システム学会	玉川 英則 会長
内閣府宇宙開発戦略推進事務局	高田 修三 局長
国土交通省	北本 政行 政策統括官
国土交通省国土地理院	村上 広史 院長



開会挨拶(要旨)

国土交通副大臣

秋元 司

“G空間情報の活用をより発展させていくためには、産学官の連携と協力が重要である。技術の高度化を図る必要性を感じており、全力にて力を注いでまいりたい。”



日本科学未来館 館長

毛利 衛

“文化としての科学技術として、G空間が生活に浸透していくためには女性の存在が不可欠。今後ともこの分野において女性が活躍していくことを期待したい。”



公益社団法人

日本測量協会 会長

矢口 彰

“見て、聴いて、学んでいただくという我々の企画において、測量の関係者も一般の方々とともに交流しながら新しい方向を見出す機会になることを期待したい。”



一般財団法人

衛星測位利用推進センター 理事長

岡部 篤行

“オリンピックに向け多くの方々が日本得意のおもてなしの技術、空間情報技術を活用した新たな産業を興そうとしている。積極的に支援をしていきたい。”



3. G空間EXPOメッセージゾーン

主催：G空間EXPO2017運営協議会

G空間EXPOメッセージゾーン

■ G空間EXPOメッセージゾーン

(1) 概要

「G空間社会って何?」という疑問にお答えするため、G空間EXPOへの入口という場所で、私たちの身近にある地理空間情報などをご紹介をしつつ、G空間社会の成り立ちについて分かりやすく説明した。また、メインステージにおけるステージプログラムにおいては、G空間社会を牽引するプレーヤーの方々に、地理空間情報活用の今日についてお話いただいた。

名 称	G空間EXPOメッセージゾーン
開催期間	平成29年10月12日(木)・13日(金)・14日(土) 10:00~17:00
会 場	日本科学未来館 1F 企画展示ゾーンa・b

(2) 構成

①テーマ展示②インフォメーション及び③ステージプログラムから構成。

展示については、隣接して開催の地理空間情報フォーラムと連携した形とした。

①. テーマ展示

(ア) G空間 EXPO の趣旨等説明パネル

(イ) 日本科学未来館

位置センシング技術を用いて行動履歴を取得、それを活用したサービスについて展開。

(ウ) 海上保安庁

「3D海底地形図・測量機器」海底地形図及び各種測量機器(模型含む)の展示。

(エ) 位置情報サービス研究機構(Lisra)

「屋内測位」新たな手法による屋内測位についての展示(昨年度の成果報告)。

②. インフォメーション

日本科学未来館シンボルゾーン入口を入ったところに「インフォメーション」を設け、当日パンフレットの配布や来場者の各種問い合わせに対応した。また、来場者アンケートはパンフレットに差し込み配布し、回収は、インフォメーションとステージ横の出入り口で行った。

対応スタッフは以下の通り。

・測量4団体、国土政策局、国土地理院、運営スタッフ2名(OMC)

③. ステージプログラム(メインステージ)

G空間社会を牽引する各回のプレーヤーや多彩なゲストを招き、G空間社会を支える最先端技術や製品サービス等を分かりやすく紹介するなど、様々なステージプログラムを実施した。

※内容は別紙のとおり(一部は動画共有サイトにおいて様子を公開した)。

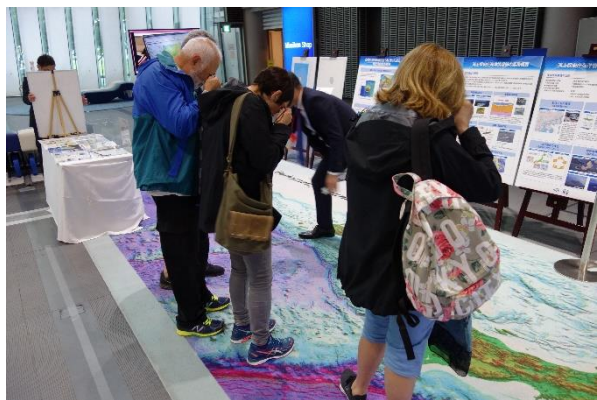
テーマ展示

■ 海の底を歩いてみよう！～3D海底地形図～

新しく発行された海図、海底地形図を見てみよう！～西之島～

「海にもG空間社会があるの？」という疑問に答えるため、海洋情報業務の紹介を中心に分かりやすく説明。海上保安庁では、船舶交通の安全のために必要な海図等を最新に保つための測量を行っており、そのデータを用いて作成した日本周辺の3D海底地形図を展示した。また、西之島周辺海域の海図と海底地形図も、調査時の映像や採取した岩石と併せ展示した。

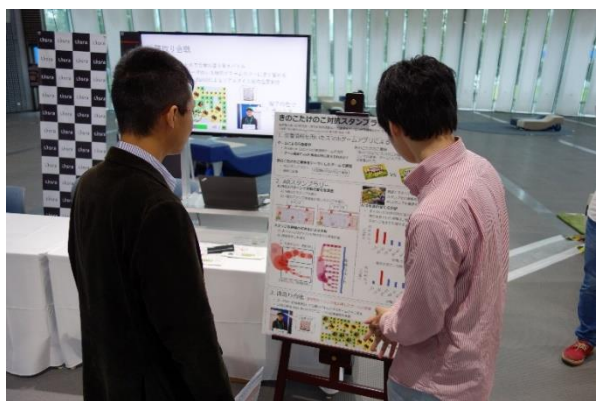
(運営協力) 海上保安庁海洋情報部



■ G空間EXPO2017屋内測位×IoT実証実験の成果展示 / Lisra

近年「IoT」が注目を集めているところ、人やモノの動きを他のIoTデータと同時に取得し、分析する手法が社会的に求められている。しかしながら得られた位置や人の流れ情報の分析・活用についても、まだまだ十分な経験が蓄積されているとはいえず、実証実験の積み重ねが必要となる。G空間EXPO2018においては、位置情報サービス研究機構のこれまでの実証実験の成果、例えばG空間EXPO2017におけるきのこ×たけのこ競争などの形での実証実験など、これまでの成果を整理して展示を行った。

(運営協力) 位置情報サービス研究機構 (Lisra)



■ 日本科学未来館をフィールドとする空間情報技術を活用した新しいサービスの提案及び実践

センシングとマッピングを統合した価値のあるサービスのデザインを、多様なステークホルダーと共に行っていくことを目的としてスタートしたプロジェクト。G 空間EXPO2016では、その足がかりとして行ったアイデアソン & ハッカソンの実施報告を行ったところであるが、今年度は、より具体的なサービスを実践的に提案することとし、館内専用アプリ「Miraikanノート」を用いて、一般客の館内で過ごした行動履歴を取得し、それを活用したサービス（例えば、展示体験のダイジェストを編集して提示するなど）をラウンジ状のスペースで提供した。

（運営協力）日本科学未来館、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科（神武直彦研究室）



ステージプログラム（12日）

■ 活躍する女性たち

地理空間情報分野においては女性や若手は比較的少数であり、担い手不足である。その中で、製品開発や業務の中で女性目線でこんなことができた、こんな苦労話があった、というご経験や、こうすればこれまで以上に「男女」という区別ない業界として、地理空間情報業界を盛り上げていけるのではないかというご意見をいただき、特に女性の担い手確保による業界活性化を目指すと共に、女性が地理空間情報業界で働きたいと感じてもらえるようなメッセージを発信していただいた。

【日 時】

10月12日(木) 11:00～12:52

【出演者】（敬称略）

「女性視点による地理空間情報の商品開発について」 大倉 更織（パスコ株式会社）

「開発途上国のためのG空間情報技術」山下 淳子（朝日航洋株式会社）

「公共施設マネジメント支援における地理空間情報技術の活用」今岡 タ子（アジア航測株式会社）

「地理空間情報におけるISO-TC211の役割」黒川 史子（国際航業株式会社）

コーディネータ：山本 佳世子（電気通信大学准教授）



ステージプログラム（13日）

■「地図で見る富士山の“ヒミツ”と魅力」

【日 時】

10月13日(金) 15:30～16:55

【出演者】（敬称略）

田代 博（日本地図センター）

古地図や旧版地図、最新のデジタル地図も使って、富士山の「ヒミツ」を地図から読み解くことをテーマにした講演をしていただいた。

富士山頂上の帰属問題や富士山の見え方、ダイヤモンド富士などを題材に、歴史を紐解く際における地理空間情報の活用例を交え、地理空間情報活用への興味を喚起しつつも平易に講演いただいた。



ステージプログラム（14日）

■ 基調講演

「宇宙技術で誰も見たことがない地震・火山の正体に迫る」

【日 時】

10月14日(土) 10:05～10:55

【出演者】（敬称略）

藤原 智（国土地理院 地理地殻活動総括研究官）

地震や火山活動は地下で人知れず進行しており直接見ることはできないものの、地下での活動は地表で地殻変動として現れる。そこで、人工衛星のレーダーを使ってこれらの地殻変動を詳細にマッピングしてみると、今まで誰も見たことがなかった地震・火山像が見えてきたところ。これらについて講演いただき、平成28年に発生した熊本地震への対応を中心に研究の最先端を紹介いただいた。



■ 講演

「Pokémon Goと地理空間情報」

【日時】

10月14日(土) 11:00～11:50

【出演者】（敬称略）

村井 説人（ナイアンティック）

Pokémon Goのプロデュースを手掛けた村井氏により、ゲームに位置情報を組み込んだことに対する思い、すなわち、現実の世界で身体を動かし、周囲を探索して周りに何があるのかをもっとよく知り、さらに人々が交流することについて、教育上の効果なども交え、AR（拡張現実）を活用し、地理空間情報をゲームに組んできた経緯について講演いただいた。



ステージプログラム（14日）

■ 学生の活動報告

【日 時】

10月14日(土) 12:35～14:25

【出演者】（敬称略）

寺内 輝、斎藤 由菜子（日本大学）

東原 功哉（電気通信大学）

於宿 圭吾慶（應義塾大学）

田村 賢哉（首都大学東京大学院）

コーディネータ：宇根 寛（国土地理院）

地理空間情報分野においては若手が比較的少数であり、担い手不足と考えられていた。その中で、これからのこの分野について担っていただくことを期待できる学生たちに、これまでの研究成果を発表していただいた。結果として当分野におけるそれぞれの研究の重要性といった立ち位置を再認識していただく機会、またプロの視点からの意見等に触れる機会となった。



4. 地理空間情報フォーラム2017

主催： 公益社団法人 日本測量協会
一般社団法人 全国測量設計業協会連合会
一般社団法人 日本測量機器工業会
公益財団法人 日本測量調査技術協会

実施報告

■ 地理空間情報フォーラム

1. 概要

企業・団体・機関等の展示・体験イベント等により、日本のG空間社会を支える最先端の技術やサービス等をご紹介しました。各出展者による高度で専門的な展示を通じ、G空間社会についてもっと知りたいといった一般の方々や、情報収集を目的としたビジネス層のニーズに対応しました。

名称 地理空間情報フォーラム2017

会期 2017年10月12日（木）～14日（土）

会場 日本科学未来館 1階企画展示ゾーン a・b および屋外

主催 公益社団法人 日本測量協会
一般社団法人 全国測量設計業協会連合会
一般社団法人 日本測量機器工業会
公益財団法人 日本測量調査技術協会

展示会 G空間社会（地理空間情報高度活用社会）に関わる基盤技術、応用技術、機器やシステム、ソフトウェア、データ、器具・材料、サービスが、産学官連携により一堂に会して技術展示を実施しました。

ベンダーフォーラム

展示だけでは分かりにくい技術や製品・サービスの詳しい内容を、専門分野の来場者に説明していただく機会として実施しました。

測量コンテスト 日本科学未来館Geoコスモスと、任意に取り付けた月球儀との中心間距離を測定し、その精度や測量におけるアイデアを、事前エントリーした14チームで競いました。

体験イベント 地理空間情報フォーラム出展者が各出展ブースや屋外にて、その技術やサービスを実際に来場者が触れて体験できる催しとして実施しました。

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------------|
| 1：人工衛星画像であなたの街を見渡してみよう！ | 宇宙衛星ゾーン(国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構) |
| 2：「地図による小地域分析(jSTAT MAP)」の活用方法 | 総務省統計局 / 独立行政法人統計センター |
| 3：災害対応支援地図の操作体験 | 国立研究開発法人 防災科学技術研究所 |
| 4：MoGIST ワークショップ | 国際航業株式会社 |
| 5：エアロボクラウドで3Dモデルを作ろう！ | エアロセンス株式会社 |
| 6：無料地盤診断体験 | 応用リソースマネジメント株式会社 |
| 7：超音波ビーコンでの位置精度体験 | 株式会社デンソー |
| 8：UC-win/Road 新機能、HMD体験プレゼンテーション | 株式会社フォーラムエイト |
| 9：未来のスタンプ「スマートスタンプ」を体験しよう | 慶應義塾大学サイバーセキュリティ研究センター / DSInnovation |
| 10：測量船「明洋」一般公開 | 海上保安庁 |
| 11：距離を測る体験コーナー | 公益社団法人 日本測量協会 |
| 12：UAVフライトシミュレータによる操作体験 | 公益社団法人 日本測量協会 |

実施報告

2. 展示

日本科学未来館1階 企画展示ゾーンa・b

1. 三菱電機株式会社/アイサンテクノロジー株式会社

3次元点群取得・作成ツールをご紹介

三菱電機は着脱型モバイルマッピングシステム「MMS-Gシリーズ」や、準天頂衛星に対応したセンチメートル級の高精度測位受信機をご紹介しました。

また、アイサンテクノロジー製 大規模点群編集ツール「Wing Earth」のご紹介しました。



2. CVビジネス研究会

株式会社岩根研究所/株式会社カナン・ジオリサーチ
株式会社倉本測量/株式会社光輝/株式会社サンコー
株式会社ティコク/株式会社中野技術/株式会社u's Factory

映像がそのまま3D地図になる! だから画像で位置標定!!

道路・河川・鉄道・電力・プラント等、主要インフラの3Dプラットフォームを映像で容易に構築できるモバイルマッピングシステム (IMSシリーズ) および運用アプリケーション (ALVシリーズ) を出展しました。



3. インクリメントP株式会社

みらい地図から歩行者3Dデモまで、位置情報コンテンツのご紹介

みらい地図・歩行者3Dデモ・安心安全コンテンツ・多言語地図・キロポスト・道路規制・大型車規制+プローブ・走行画像・ASEAN地図、ランドマークアイコン・タイ地図のルート検索デモなど、試作データを含む地図データをはじめとした各種位置情報コンテンツを展示しました。



4. 一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会

G空間情報センター

運営開始から1年を迎えるG空間情報センターについて、誰もがいつでも必要なG空間情報を容易に検索・入手可能なプラットフォームとして、G空間情報センターが実現できることおよび最近の取組みをご紹介しました。



実施報告

2. 展示

日本科学未来館1階 企画展示ゾーンa・b

5. 一般社団法人 東京都測量設計業協会

基準点カード、基準点インフラツーリズムの提案

都内の特徴的な三角点などを紹介する「基準点カード」と「基準点インフラツーリズム」などをご紹介しました。

1. 「基準点カード」と「基準点インフラツーリズム」

- ・基準点カード(約40種)を一同にご紹介し、数量限定で配布しました(三角点、水準点、電子基準点、凡号高低標等)。
- ・基準点インフラツーリズムのパンフレットを配布しました。(江戸城周辺基準点巡り)

2. 動画による測量三角点をご紹介しました。

- ・3次元測量の技術(SfM、ドローン空撮等)を活用した測量史跡のデジタルアーカイブとして「雲取山測量登山隊2017」、「雲取山の原三角測点」「都内の凡号高低標」等。



6. 一般社団法人 日本測量機器工業会

i-Construction

i-Construction など土木工事の生産性、プロセスの効率化をはじめとして、農業分野、またインフラのメンテナンスなど社会基盤の構築などにどのように役立つかご紹介しました。



7. 測位衛星技術株式会社

シームレスなポジショニング技術で未来を創造

日本のみちびき衛星(QZSS)および、世界中の測位衛星システムの受信機や開発システムを展示しました。屋内測位システム(IMES)も展示紹介しました。



8. 宇宙衛星ゾーン

内閣府 宇宙開発戦略推進事務局
準天頂衛星システムサービス株式会社
国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構
一般財団法人 衛星測位利用推進センター

宇宙技術がG空間社会の未来を拓く

みちびきをはじめとして、さまざまな宇宙技術がG空間社会に貢献し、欠かせないものとなっている姿を、映像や模型などの各種展示で、皆様にわかりやすくご紹介しました。



実施報告

2. 展示

日本科学未来館1階 企画展示ゾーンa・b

9. 株式会社パスコ

空間情報の技術と現実空間の3次元について、映像を使って分かりやすくご紹介しました。



10. 総務省 統計局/独立行政法人 統計センター

政府統計の総合窓口（e-Stat）の機能紹介

「地図で見る統計（統計GIS）」（統計データのグラフ表示、集計、印刷等の機能）及び、「地図による小地域分析（jSTAT MAP）」（ユーザの保有データを取り込んで分析する機能や任意に指定したエリアにおける統計算出機能）を中心にデモンストレーションを交えてご紹介しました。



11. 防災アプリ審査委員会

防災アプリ賞の紹介

今年度応募のあったアプリの中から、防災アプリ審査委員会において選定した防災アプリを実際に展示・操作体験を行いました。



12. 国土交通省 国土地理院

国土地理院の国土を測る・描く・守る活動の紹介

「地理空間情報活用推進基本法制定10年」をテーマに、パネルで国土地理院の取り組みをご紹介しました。また、日本各地に設置されている「電子基準点」の模型展示、地理院地図を用いて作成した3D模型の展示と作成実演、東京都区部の地形が立体視できるデジタル標高地形図や明治10年代に参謀本部陸軍部測量局が測量した五千分一東京図測量原図の展示等を行いました。



実施報告

2. 展示

日本科学未来館1階 企画展示ゾーンa・b

13. 国立研究開発法人 産業技術総合研究所

G空間IoTとG空間情報解析プラットフォーム

産総研で研究を進めている「位置」や「移動」に着目したG空間に関する研究開発事例をご紹介します。特に、(1)G空間IoT(「現場のラボ化」と「ラボの現場化」)、(2)G空間情報解析プラットフォーム、(3)RGB-Dカメラを用いた人流計測システム、(4)自律移動ロボットによる人・環境理解、(5)高精度視覚マーカによる測位と動作計測、(6)視覚障害者移動支援などによる測位と動作計測など、基礎的な研究から応用的な研究まで幅広くご紹介しました。自律移動ロボットが会場内を動き回りました。



14. 株式会社インフォマティクス

地理院地図を活用したソリューション他、「GeoConic」のご紹介を行いました。



15. 国立研究開発法人 防災科学技術研究所

九州北部豪雨の災害対応（クライシスレスポンスサイト）

平成29年7月九州北部豪雨の災害対応において、Web-GISを活用した情報支援活動をご報告しました。



16. アジア航測株式会社

3次元測量データの応用と社会貢献

航空機から撮影された写真・レーザ計測による詳細地形・オブリークカメラ（複数の多角レンズにより構成）を用いた3Dモデルなど、最近の事例をご紹介します。またTV、映画でも活躍する当社の空間情報データもご紹介しました。平面なのに微地形がひと目で分かる「赤色立体地図」や、車載観測システム・航空機観測による詳細3次元都市モデルなどの展示を行いました。



実施報告

2. 展示

日本科学未来館1階 企画展示ゾーンa・b

17. 国際航業株式会社

安心で安全なまちをつくる地理空間情報技術の紹介

地理空間情報技術（GIST）を、「環境」「防災」「生活」の視点から、わかりやすくご紹介しました。



18. 国立研究開発法人 国立環境研究所

環境情報メディア「環境展望台」の紹介

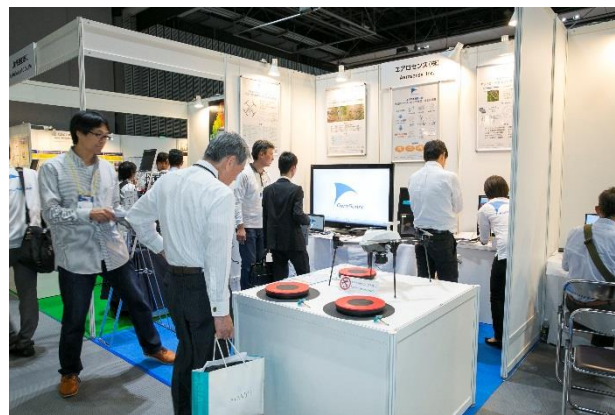
「環境GIS」について、解説パネルやPCを使ってご紹介しました。



20. エアロセンス株式会社

エアロボ測量2.0

エアロボ測量2.0で、標定点・検証点の事前準備やドローンの飛行、3次元データの作成まで、専用ソフトウェアや難しい操作を要せずに測量が行えることをご紹介しました。



21. 株式会社快適空間FC

UAV搭載型レーザースキャナ

ドローン及びUAV搭載型レーザースキャナを展示しました。今回は機材をDJI Matrice600に搭載したものを展示しました。



実施報告

2. 展示

日本科学未来館1階 企画展示ゾーンa・b

22. 応用リソースマネジメント株式会社

位置情報管理・発信ソリューション

出展製品1 : Report MAP ReportMAP

出展製品2 : @Balloon@Balloon



23. 国土交通省 高精度測位社会プロジェクト

国土交通省 高精度測位社会プロジェクト

準天頂衛星4機体制の整備、屋内外測位環境・技術の進展、携帯情報端末の普及・高度化等により、高精度な測位環境が整備された社会（「高精度測位社会」）の実現に向けた取り組みのご紹介を行いました。



24. 株式会社デンソー

屋内位置情報システム

超音波スピーカーに独自の技術（当技術に関する特許申請済）を用い、スマートフォンのマイクを利用し、屋内における正確な位置把握を実現した、精度の高い屋内ナビゲーションのご紹介をしました。



25. リーグルジャパン株式会社

空から地上からレーザーによる3次元計測

UAVレーザー計測システム：

計測システムの展示と国内導入事例をご紹介しました。

地上レーザスキャナ：

その場で簡単に3次元データが計測できる地上レーザスキャナを実際に動かしながらご紹介しました。



実施報告

2. 展示

日本科学未来館1階 企画展示ゾーンa・b

26. ESRIジャパン株式会社

地理空間情報を最大限に活用できるプラットフォーム「ArcGIS」

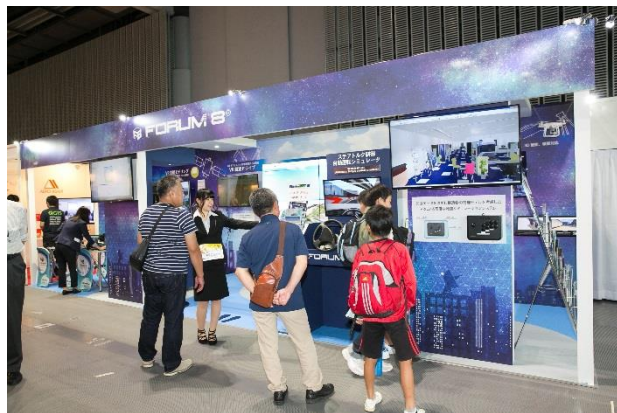
地理空間情報を最大限に活用できるプラットフォーム「ArcGIS」が提供する、地理空間データの取得から、可視化、解析、共有、活用までの一連のソリューションをご紹介します。



27. 株式会社フォーラムエイト

バーチャルリアリティの時代 UC-win/Road®

G空間情報の活用、国土強靱化に資するソリューションを展示しました。設計、解析、CADソフトの他、3次元バーチャルリアリティソフトUC-win/Roadでは、GPS及びGISデータを活用したモデリング、シミュレーションが可能であり、システム展示としてIoT、CIM、i-Construction、自律飛行UAV、自動運転、クラウド、VR/ARなどの各種構築事例をご紹介します。



28. 朝日航洋株式会社

オープンソースによる空間IT活用サービスと河川管理の次世代システム

最も注目されているオープンソースの地理情報システムQGISと、オープンデータ等を配信するカタログサイトとQGIS等のツールを組み合わせた空間IT活用サービスPubuli.Kaをご紹介します。また最先端の計測技術を利用した河川の維持管理業務を支援する次世代システムもご紹介しました。

- ① 航空レーザによる水陸同時に河道を三次元計測
 - ② 船舶型ロボットに搭載の測深機とカメラによる水中計測
 - ③ 大型除草機に搭載した三次元計測機器による堤防計測など
- 河川維持管理の「高度化」と「省力化」を実現するG空間情報の活用事例を展示しました。



29. 慶應義塾大学 サイバーセキュリティ研究センター / DSInnovation

「情報銀行」のご紹介

パーソナル情報を取り扱うHUBとなり、安全かつ安心してパーソナル情報を管理し、活用するための試みをご紹介します。



実施報告

2. 展示

日本科学未来館1階 企画展示ゾーンa・b

30. 株式会社日立製作所/株式会社日立産機システム /株式会社日立ソリューションズ

位置情報ソリューション

日立グループのG空間関連の製品、ソリューションをご紹介しました。

主な出展内容

位置情報システム ICHIDAS

空間情報ソリューション GeoMation

位置情報ソリューション



31. 公益社団法人日本測量協会

日本測量協会の業務紹介

日本測量協会及び測量技術センターの業務について、パネルとスライド画像を用いてご紹介しました。また、日本測量者連盟（JFS）の活動について、パネルとビデオ映像を用いてご紹介しました。



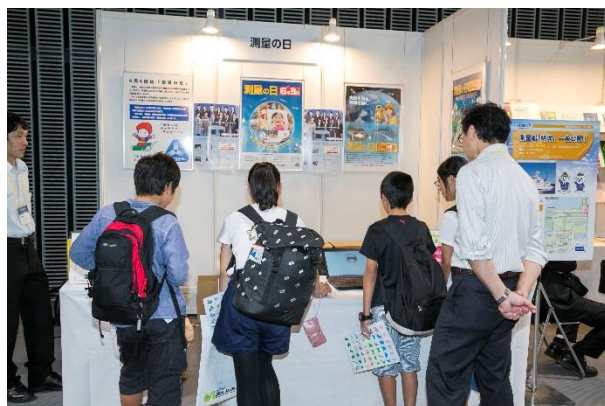
関連図書展示コーナー

測量、地理空間情報関連の書籍を展示しました



測量の日

10月12日（木）～14日（土）の3日間、キャラクター（マッピー）が会場内を回遊しました。



実施報告

3.ベンダーフォーラム

日本科学未来館1階 企画展示ゾーンb内メインステージ

本年は、G空間EXPO2017メッセージゾーン メインステージプログラムの中で開催しました。
登壇者は、地理空間情報フォーラム2017出展者から募り、G空間EXPOが掲げる、
地理空間情報高度活用社会の実現に向けた地理空間情報と衛星測位の利活用を推進
するというコンセプトのもと、各者の視点で講演を行いました。

概要 主催：(公社)日本測量協会・(一社)全国測量設計業協会連合会
(一社)日本測量機器工業会・(公財)日本測量調査技術協会
日時：2017年10月12日(木) 13:00～16:00

プログラム	13:00	—————	メインステージ使用開始	—————
	13:15		13:15	
	13:30		アイサンテクノロジー株式会社様 自動運転における地理空間情報の利活用	
	13:45		13:45	<聴講> 40名 + 立ち見10名>
	14:00		13:55	
	14:15		リーグルジャパン株式会社様 空から地上からレーザーによる3次元計測	
	14:30		14:25	<聴講> 23名 + 立ち見5名>
	14:45		14:35	
	15:00		株式会社フォーラムエイト様 CIM/ i-ConstructionにおけるIM&VR ソリューションの活用	
	15:15		15:05	<聴講> 24名 + 立ち見3名>
	15:30		15:15	
	15:45		株式会社快適空間FC様 UAVレーザの運用から見てきた可能性と課題	
	16:00		15:45	<聴講> 22名 + 立ち見7名>
		—————	メインステージ明け渡し	—————



実施報告

5.体験イベント

日本科学未来館1階 企画展示ゾーンa・b および屋外

人工衛星画像であなたの街を見渡してみよう！

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 (宇宙衛星ゾーン)
人工衛星「だいち」が宇宙から撮影した東京都内の画像を、大きな
床敷きマップにして展示しました。



「地図による小地域分析 (jSTAT MAP)」の活用方法

総務省統計局 独立行政法人統計センター

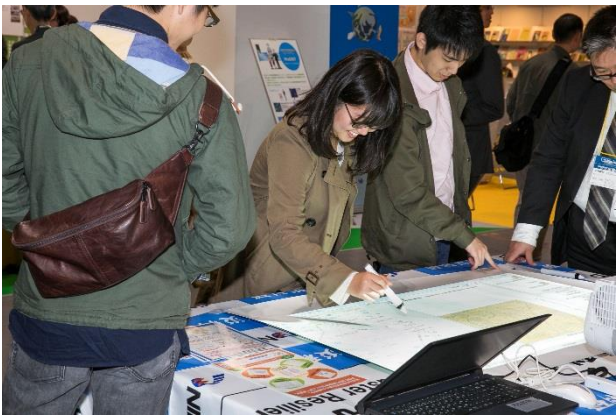
- ・身近な地域を「地図による小地域分析 (jSTAT MAP)」を使って地図に表す体験を行いました。
- ・自宅で受けられる統計教育を体験いただきました。



災害対応支援地図の操作体験

国立研究開発法人 防災科学技術研究所

九州北部豪雨のクライシスレスポンスサイトや災害対応支援
地図の操作を体験いただきました。



MoGIST ワークショップ

国際航業株式会社

お子様向けに地図の工作など、楽しみながらG空間を体感
いただけるイベントを行いました。



実施報告

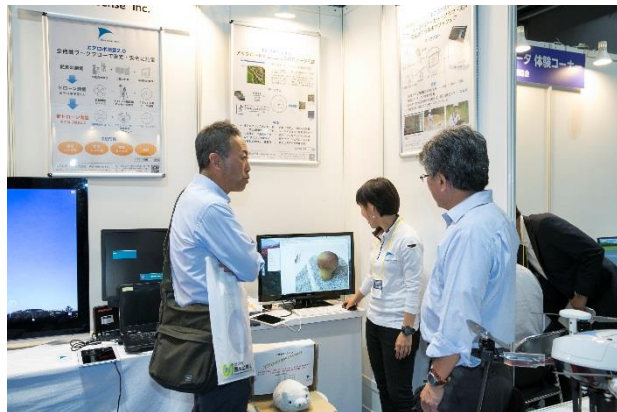
5.体験イベント

日本科学未来館1階 企画展示ゾーンa・b および屋外

エアロボクラウドで3Dモデルを作ろう！

エアロセンス株式会社

エアロボクラウドで3Dモデルを作ることを行いました。



無料地盤診断体験

応用リソースマネジメント株式会社

ReportMAPにご自宅や会社の住所を入力し、その場所の持つ特性や災害リスクが分かる「簡易地盤診断レポート」を作成する体験を行いました。レポートはお持ち帰り可能としました。



超音波ビーコンでの位置精度体験

株式会社デンソー

スマホ（アプリを事前にインストール）を手に持ち、モナリザ・ゴッホの絵画の前に立つと、超音波スピーカーから位置情報が送られてきて、その絵画の解説が始まる体験を行いました。



UC-win/Road 新機能、HMD体験プレゼンテーション

株式会社フォーラムエイト

G空間情報を活用した最新のシステム構築事例のプレゼンテーションの他、モデリング、シミュレーション、ハードウェア連携までの一連のシステムの構築を10分程度で実際に体験いただきました。

モデリング： GIS/GPSデータを活用した都市モデルの作成

シミュレーション：

作成した都市モデルでのシミュレーション、位置情報を活用したログデータ収集、分析

システム：

プラグインを使用したHMD連携によるVRシステム体験



実施報告

5.体験イベント

日本科学未来館1階 企画展示ゾーンa・b および屋外

未来のスタンプ「スマートスタンプ」を体験しよう

慶應義塾大学サイバーセキュリティ研究センター / SInnovation
インターネットに繋がった未来のスタンプ「スマートスタンプ」を体験いただきました。普段何気なく使っているスタンプがインターネットに繋がることによって様々な可能性が生まれることを体験していただきました。



距離を測る体験コーナー

公益社団法人 日本測量協会

事前に定めた区間で、参加者が歩測と光波測距儀（TS）により距離測定を行うことで、測量を身近に感じていただくコーナーでした。参加者は、自分の1歩当りの歩幅と歩数から距離を求め、その区間の距離をTSで正確に測定するコーナーでした。

歩測で求めた距離とTSで求めた距離を比較し、その誤差が小さい場合は、「歩測の達人」の称号を授与しました。

	体験者数	達人数	達人割合	備考
10月12日(木)	221(125)	46(18)	20.8%(14.4%)	屋外50m
10月13日(金)	-	-	-	雨天中止
10月14日(土)	214(53)	47(12)	21.9%(22.6%)	屋外50m
合計	435(178)	93(30)	21.3%(16.8%)	

※カッコ内は小学生



UAVフライトシミュレータによる操作体験

公益社団法人 日本測量協会

シミュレーターソフトを使って、UAVの操作体験をしていただきました。風景や、UAVも忠実に再現し、多くの方にお楽しみいただけるイベントでした。



測量船「明洋」一般公開

海上保安庁

海底地形、海底地質構造の調査及び海流・潮流など各種の調査活動を目的とした中型の多目的測量船で、海洋測量、海洋観測及び沿岸調査を任務としている「明洋」を一般公開しました。また、10月12日（木）・14日（土）はキャラクター（うーみん、うみまる）が日本科学未来館1階フロアを回遊しました。

日時：2017年10月14日（土） 10時～16時30分

天候：小雨～雨

場所：台場官庁船専用岸壁

協力：海上保安庁

見学者：328名（2016年334名）



6.広報

- 6-1.日本測量協会メールマガジン（5月～10月）**
- 6-2.月刊「測量」広告（2017年8月号～10月号）**
- 6-3.G空間EXPO/地理空間情報フォーラム2017
開催記者発表会・業界紙新聞記事**
- 6-4.地理空間情報フォーラム2017
Facebook ページ開設（2017.8.01～）**

6-1.日本測量協会メールマガジン（5月～10月）

配信対象：日本測量協会全会員宛

配信日：

2017.5.10

G空間EXPO会期告知/Geoアクティビティコンテスト募集案内

2017.6.09

G空間EXPO公式ページ（ティザー）紹介

2017.7.11

G空間EXPO各イベント構成紹介/測量コンテスト募集案内

2017.8.10

測量コンテスト募集案内

2017.9.08

G空間EXPO・地理空間情報フォーラム公式ページ紹介/測量コンテスト締切案内/
日本測量協会主催シンポ紹介/北陸G空間フォーラムin新潟紹介

2017.9.14

<G空間EXPO号配信>

北陸G空間フォーラムin新潟紹介/G空間EXPO公式ページリニューアル案内

測量コンテスト・測量船一般公開・出展者一覧と概要・日本測量協会主催シンポ紹介

2017.10.06

G空間EXPO各イベント概要紹介

6.広報

6-2.月刊「測量」広告（2017年8月号～10月号；各約13,000部）

掲載号：2017.8月号 表2対向から3p



2017.9月号 表2対向から5p



2017.10月号 表2対向から7p



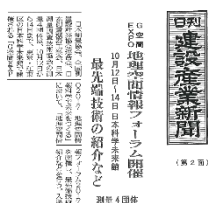
6.広報

6-3. G空間EXPO/地理空間情報フォーラム2017開催記者発表会・業界紙新聞記事

記者発表会

開催日： 2017.9.14
 場所： 日本測量協会 研修室
 掲載情報： 2017.9.15建設産業新聞/建通新聞
 2017.9.19 建設工業新聞
 2017.9.21 建設通信新聞
 2017.9.25 建設通信新聞
 2017.10.6 建通新聞

2017.9.15 建設産業新聞



2017.9.15 建通新聞



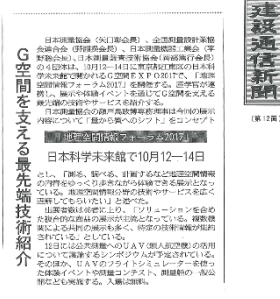
2017.9.19 建設工業新聞



2017.9.21 建設通信新聞



2017.9.25 建設通信新聞



2017.10.6 建通新聞

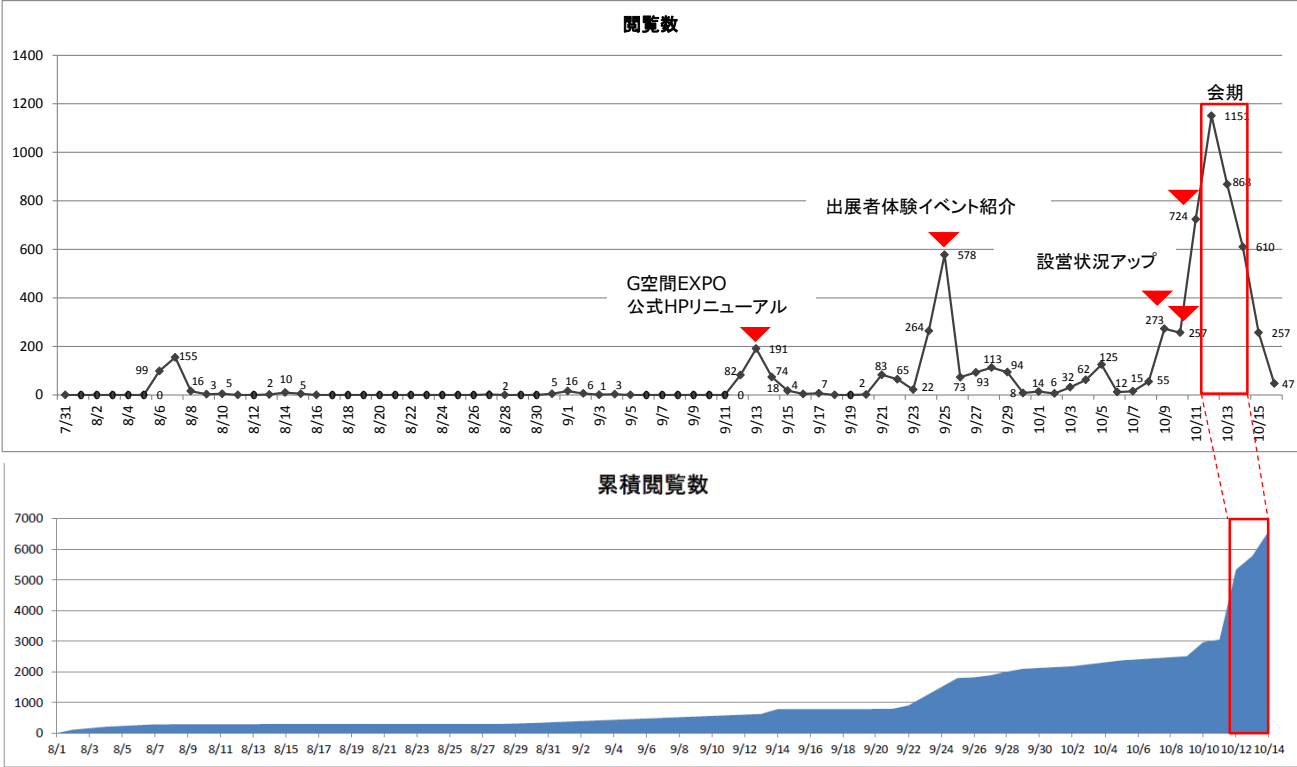


日刊建設工業新聞 10面 (2017.10.10発行)



6.広報

6-4.地理空間情報フォーラム2017 Facebook ページ開設 (2017.8.1～)



※地理空間情報フォーラム2017 Facebook ページ 投稿別アクセス数

投稿日	投稿文	閲覧数	累積閲覧数
10/14	会期終了から約2時間後の様子。あつという間の3日間でした。G空間Expo2017そして地理空間情報フォーラム2017にご来場いただいた皆様、このFBページをご覧いただいた皆様、ありがとうございました。またお会いしましょう！	86	6590
	いよいよ会期最終日も大詰め。会場内は、まだまだ熱気に包まれています。	1	6504
	G空間Expoの運営協議会メンバーの衛星測位利用推進センター様の体験イベントの様子です。	104	6503
	測量船「明洋」一般公開の様子その2です。間近で見ると、迫力が違います！本日16時半まで(入船受付は16時まで)の開催です。日本科学未来館と一般公開会場との間をシャトルバスで結んでいます。どうぞご利用ください。	107	6399
	測量船「明洋」の一般公開会場の一コマです。海上保安庁様のご協力により、本日16時半まで開催中です。(受付終了16時)	13	6292
	測量の日ブースマッピョー君クイズに挑戦！景品を差し上げております。	86	6279
	雨も上がり、歩測大会は通常開催中です。(個人情報保護の観点で、個人を識別できないカットにしています。)	86	6193
	本日は、海上保安庁様ご協力のもと、測量船「明洋」の一般公開日です。「明洋」一般公開会場へのアクセスは、日本科学未来館から臨時シャトルバスが出ておりますので、ご来場の折にはぜひ「明洋」の見学にも足をお運びください。一般公開会場から日本科学未来館へのただいま会場いたしました！	139	6107
	本日の歩測大会。開催を予定しております！	74	5968
	さあ、最終日。天候が気になるところですが、本日も出展者の皆さんと、多くの方のご来場をお待ちしております！	63	5894
10/13	ソクジョカフェ、本日16時まで、7階のミライカンキッチンにて開催しています！	50	5831
	ソクジョカフェ、本日16時まで、7階のミライカンキッチンにて開催しています！	74	5781
	地理空間情報フォーラム測量コンテスト開催中！Geoコスモスと、月球儀との中心間の距離を測定しその測定精度を競います。自作した測量用具(?)にて挑むチームもあります。明日14日も開催していますので、見かけたら“そつと”応援してあげてください！	92	5707
	G空間EXPOGeoアクティビティコンテスト本日、メインステージではGeoアクティビティコンテストのプレゼンテーションが行われております。15時15分までの予定です。そして明日には表彰式も開催されます。	80	5615
	地理空間情報フォーラム日本測量協会体験イベント歩測大会について本日は雨天のため、中止とさせていただきます。楽しみにされていた方、申し訳ありません。明日は歩測大会開催を予定しておりますが、天候により開催可否を決定させていただきます。予めご了承ください。	46	5535
	総務省統計局様、統計センター様キャラクターセンサスくんも、お待ちしております！	79	5489
	第2日目、もうすぐスタートです。	78	5410

6.広報

6-4.地理空間情報フォーラム2017 Facebook ページ開設 (2017.8.1～)

※地理空間情報フォーラム2017 Facebook ページ 投稿別アクセス数

	本日のG空間EXPO/地理空間情報フォーラムは、まもなく17時をもって終了です。明日も10時から17時までの開催です。皆様のご来場をお待ちしております。	1	5332
	日本科学未来館様と位置情報サービス研究機構Lisra様も出展いただいております。	60	5331
	恒例、歩測大会も人気です。	69	5271
	測量の日関連図書展示コーナーです。	62	5202
	地理空間情報フォーラム小間番号30日立製作所様日立産機システム様日立ソリューションズ様のブースです。	66	5140
	地理空間情報フォーラム小間番号29慶応義塾大学サイバーセキュリティ研究センター様DSInnovation様のブースです。	58	5074
	地理空間情報フォーラム小間番号28朝日航洋様のブースです。	74	5016
	地理空間情報フォーラム小間番号27フォーラムエイト様のブースです。	62	4942
	地理空間情報フォーラム小間番号26ESRIジャパン様のブースです。	62	4880
	地理空間情報フォーラム小間番号25リーグルジャパン様のブースです。	66	4818
	地理空間情報フォーラム小間番号24デンソー様のブースです。	47	4752
	地理空間情報フォーラム小間番号23国土交通省高精度測位社会プロジェクト様のブースです。	72	4705
	地理空間情報フォーラム小間番号22応用リソースマネージメント様のブースです。	60	4633
	地理空間情報フォーラム小間番号21快適空間FC様のブースです。	58	4573
	地理空間情報フォーラム小間番号20エアロセンス様のブースです。	52	4515
	地理空間情報フォーラム小間番号19日本測量協会のブースです。	52	4463
	地理空間情報フォーラム小間番号18国立環境研究所様のブースです。	61	4411
	地理空間情報フォーラム小間番号17国際航業様のブースです。	62	4350
10/12	地理空間情報フォーラム小間番号16アジア航測様のブースです。	53	4288
	地理空間情報フォーラム小間番号14インフォマティクス様のブースです。	56	4235
	地理空間情報フォーラム小間番号15防災科学技術研究所様のブースです。	56	4179
	地理空間情報フォーラム小間番号13産業技術総合研究所様のブースです。	72	4123
	地理空間情報フォーラム小間番号11・12防災アプリ審査委員会様国土交通省国土地理院様のブースです。	71	4051
	地理空間情報フォーラム小間番号10総務省統計局様・統計センター様のブースです。着ぐるみ会場内を巡回予定！	73	3980
	地理空間情報フォーラム小間番号9パスコ様のブースです。	49	3907
	地理空間情報フォーラム小間番号7測位衛星技術様のブースです。	54	3858
	地理空間情報フォーラム小間番号6日本測量機器工業会様のブースです。	61	3804
	地理空間情報フォーラム小間番号5東京都測量設計業協会様のブースです。	62	3743
	地理空間情報フォーラム小間番号4社会基盤情報流通推進協議会様のブースです。	74	3681
	地理空間情報フォーラム小間番号3インクリメントP様です。開会直前の写真ですが、すでに今はブースには多くの人が。	89	3607
	地理空間情報フォーラム小間番号20ビジネス研究会様のブースです。こちら車両の展示があります。隣り合う2ブースで車両が出ていると、見ごたえがあります。	75	3518
	地理空間情報フォーラム小間番号1三菱電機様・アイサンテクノロジー様の小間の様子です。車両展示もあります。もちろんたの車両ではありません。どんな車両か、、、は、ぜひご来場してご覧ください。	73	3443
	続いて、今年も測量船「明洋」の一般公開を14日に控えた、海上保安庁海洋情報部様のブースです。	86	3370
	さっそく出展者のご紹介。まずは、つい数日前に準天頂衛星「みちびき」の打ち上げ成功のニュースも新しいですが、宇宙衛星ゾーンの開会直前の様子です。	60	3284
	開会式はじまりました	95	3224
	オープン10分前	69	3129
	このあと10時から始まります！	7	3060

実施報告

6.広報

6-4.地理空間情報フォーラム2017 Facebook ページ開設 (2017.8.1～)

※地理空間情報フォーラム2017 Facebook ページ 投稿別アクセス数

投稿日	投稿文	閲覧数	累積閲覧数
10/11	明日の開催に向けて、準備が着々と進んでおります！	87	3053
10/10	お昼明けの様子です。社名板も入り、自社で施工をされることも、作業を開始し始めました。	125	2966
	広かった会場も、壁がたち始めると狭さを感じ始めます。	98	2841
	オクタの壁も立ち始め、カーペットの敷き込みも徐々に進んでいます。	122	2743
	本日も始まりました。	112	2621
10/9	本日から作業開始です！電気工事が始まります。外では一般来場のお子さんの声も聞こえています。	138	2509
10/5	G空間EXPO地理空間情報フォーラム2017来週の予告来週月曜日からいよいよ地理空間情報フォーラム2017への出展各者の展示装飾工事が始まります。初めに電気工事やインターネット回線の引き込み工事などから始まり、順次ブースが立ち上がっていきます。その模様は写真付きで	46	2371
	G空間EXPOGeoエデュケーションプログラムのご紹介今回は、Geoエデュケーションプログラムの詳細をご案内します。10月12日「Geoまち歩き企画を作成しよう」対象、自治体関係者・一般来場者会場：日本科学未来館7階コンファレンスルーム水・火・土・星	55	2325
	G空間EXPO2017地理空間情報フォーラム2017測量コンテストのご紹介以前にもこちらで測量コンテストのエントリーチームの募集告知をさせていただきましたが、今年も多くのチームにご応募いただきました。この場をお借りして、御礼申し上げます。さて、今年のエントリーチーム数は次の	29	2270
	G空間EXPO2017メインステージプログラムのご案内日本科学未来館1階の地理空間情報フォーラムの会場内を抜けたら、正面にメインステージのスクリーンが目に入ります。今回は、10月12日から14日までの3日間、そのメインステージで開催されるプログラムをご案内します。	60	2241
10/2	測量関連業界で働く女性の交流会inG空間EXPO2017「第2回ソクジョCafe」開催します！日時：2017年10月13日（金）14:00～16:00※入退室自由場所：日本科学未来館7階展望ラウンジライオンキッチン付近<http://www.miraikan.jst.go.jp/guide/route/>対象：測量関連業界	84	2181
9/29	言葉の定義「G空間社会」についてここまでご紹介前のように「G空間社会」という言葉を使っていますが、そもそも「G空間社会」というのはどういう社会を指すのか。今回は長文になりますが、お話ししたいと思います。【G空間社会】とは今、私たちが生活しているなかで欠かせないものとなって	94	2097
9/28	G空間EXPO2017Geoエデュケーションプログラムのご紹介今回は、G空間EXPO2017公式サイト内、Geoエデュケーションプログラムのページでは、各出展団体のプレゼンスケジュールとあわせて、概要PDFを見ることが出来ます。まずは事前に概要を見て予習し、当日は実際の展示を体感しに	72	2003
9/27	地理空間情報フォーラム2017中の人からのコメントをお届けします。2週間後は会期初日。ただいま地理空間情報フォーラム2017運営事務局では、当日に向けて記録写真や警備の打合せも順次行い、会場とも最終調整の段階となっております。来月9日から基礎工事の一部が開始するため、	46	1931
	G空間EXPO2017講演・シンポジウム10月12日に開催する、日本測量協会主催シンポジウムのプログラムをご紹介します。「来たれ、UAVを用いた公共測量への挑戦者たち」と題し、10月12日（木）14時（受付開始13時半から、日本科学未来館7階のコンファレンスルーム「土星」にて開催いたします。	36	1885
	G空間EXPO2017/地理空間情報フォーラム2017のご紹介です。(http://www.g-expo.jp/forum/exhib_vender.html) 今年は地理空間情報フォーラムと同じフロア（日本科学未来館1階・企画展示ゾーンb）に設けられた「メインステージ」での開催です。【スケジュール】10月12日（木）	31	1849
	G空間EXPO2017メッセージゾーンメインステージのご紹介(http://www.g-expo.jp/message/stage.html)10月12日（木）～14日（土）の3日間に亘り、地理空間情報フォーラム2017と同じフロアに設けられたメインステージで様々な講演などが開かれます。12日は、地理空間情報フォーラム2017	22	1818
9/26	G空間EXPO2017Geoエデュケーションプログラムのご紹介(http://www.g-expo.jp/geoedu/index.html)G空間情報（地理空間情報）を活用することによって、行政や教育現場における日頃の業務における業務の方法や教育の現場が、変わる。そのお手伝いをいたします。12日、13日においては	76	1796
	G空間EXPO2017Geoエデュケーションプログラムのご紹介(http://www.g-expo.jp/geoedu/index.html)地理空間情報フォーラム2017を開催している会場と同じフロアで開催しています。G空間情報に関する独創的なアイデア、ユニークな製品、画期的な技術等を持つ中小ベンチャー企業、大学関係者	79	1720
	G空間EXPO2017メッセージゾーンのご紹介(http://www.g-expo.jp/message/exhibition.html)メッセージゾーンは大きく、「テーマ展示」「メインステージ」で構成されています。O「テーマ展示」その1【日本科学未来館をフィールドとする空間情報技術を活用した新しいサービスの提案及び実践】	99	1641
	地理空間情報フォーラム2017出展者による各イベントをご紹介展示会場内における各出展者の場所や概要は、下記公式ページからもご覧いただけます。	60	1542
9/25	出展者体験イベントご紹介～その11「距離を測る体験コーナー」屋外で開催（雨天中止）：日本科学未来館チケット売り場前主催：公益社団法人日本測量協会概要：事前に定めた区間で、参加者が歩測と光波測距儀（TS）により距離測定を行うことで、測量を身近に感じて	65	1482
	出展者体験イベントご紹介～その10「未来のスタンプスマートスタンプ」を体験しよう！ブース番号29主催：慶應義塾大学サイバーセキュリティ研究センター様DSInnovation様概要：「スマートスタンプ」は特別な操作は必要なく、また色々な種類のスタンプを用意していますので	52	1417
	出展者体験イベントご紹介～その9「UC-win/Road新機能、HMD体験プレゼンテーション」ブース番号27主催：株式会社フォーラムエイト様概要：G空間情報を活用した最新のシステム構築事例のプレゼンテーションの他、モデリング、シミュレーション、ハードウェア連携までの一連の	61	1365
	出展者体験イベントご紹介～その8「超音波ビーコンでの位置精度体験」ブース番号24主催：株式会社デンソー様概要：スマホ（当社でアプリを事前インストール）を手に持ち、モリザ・ゴッホの絵画の前立つと、超音波ビーコンから位置情報が送られてきて、その絵画の解説が	62	1304
	出展者体験イベントご紹介～その7「無料地盤診断体験」ブース番号22主催：応用リソースマネジメント株式会社様概要：展示ブースにてご紹介している「ReportMAP」は、地盤・地理・地質の情報がぎゅっと詰まったGISサービスです。ReportMAPにご自宅や会社の住所を入力	46	1242
	出展者体験イベントご紹介～その6「エアロプラウドで3Dモデルを作ろう！」ブース番号20主催：エアロセンス株式会社様概要：3Dモデルにしたい現場（建物や風景）をオーバーラップをかけて何十枚か写真を撮って、アップロードしてみよう！最新の全自動ワークフロー測量が体験	43	1196
	出展者体験イベントご紹介～その5「UAVフライトシミュレータによる操作体験」ブース番号19主催：公益社団法人日本測量協会概要：パソコンとコントローラーでUAVフライトシミュレータの操作体験ができます。お子様から大人まで幅広くお楽しみいただけます。これからUAVを	50	1153
	出展者体験イベントご紹介～その4「MoGISワークショップ」ブース番号17主催：国際航業株式会社様概要：お客様向けに地図の作成など、楽しみながらG空間を体感いただけるイベントをご用意してお待ちしています。親子でぜひご参加ください。	53	1103
	出展者体験イベントご紹介～その3「災害対応支援地図の操作体験」ブース番号15主催：国立研究開発法人防災科学技術研究所様概要：九州北部豪雨のクライシスレスポンスサイトや災害対応支援地図の操作を体験できます	43	1050
	出展者体験イベントご紹介～その2「地図による小地域分析（STATMAP）」の活用方法」ブース番号10主催：総務省統計局様・独立行政法人統計センター様概要：身近な地域を「地図による小地域分析（STATMAP）」を使って地図に表す体験・自宅で受けられる統計	57	1007
	出展者体験イベントご紹介～その1「人工衛星画像であなたの街を見渡してみよう！」ブース番号8主催：国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構様概要：人工衛星「だいち」が宇宙から撮影した東京都内の画像を大きな床敷きマップにて展示されます	50	950
9/22	今年も「測量船」一般公開を開催！海上保安庁様の協力により、「測量船明洋（めいよう）」の一般公開を開催させていただきます。日程は10月14日（土）10時～16時半（最終入場16時）ですもちろん見学にかかる費用は無料。G空間EXPO2017/地理空間情報フォーラム2017の会場である日本科学	113	900
9/21	「来たれ、UAVを用いた公共測量への挑戦者たち」日時：2017年10月12日14:00～17:00（受付開始13:30～）会場：日本科学未来館7階コンファレンスルーム土星主催：公益社団法人日本測量協会定員：150名お申込はこちらからhttps://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfYWpZJzPms	0	787
9/15	<北陸G空間フォーラムin新潟>9月20日（水）水曜メッセージにて、無事開催いたしました。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。次はいよいよ本編、G空間EXPO2017/地理空間情報フォーラム2017。皆様お楽しみに！	5	787
	G空間EXPO公式チャンネル(Youtube)今年も開設予定!https://www.youtube.com/channel/UCPGJqE8Uo6vgGkHu_b0uWgYoutubeにて、G空間EXPO公式チャンネル、今年も開設予定！現在は昨年の模様がアップロードされています。まずは昨年の様子を予習して、今年のG空間EXPOを楽しみにお待ち	3	782

6.広報

6-4.地理空間情報フォーラム2017 Facebook ページ開設 (2017.8.1～)

※地理空間情報フォーラム2017 Facebook ページ 投稿別アクセス数

投稿日	投稿文	閲覧数	累積閲覧数
9/14	地理空間情報フォーラム2017出展者一覧ページ今年も多くの皆様にご出展頂いております。下記のページから、出展者一覧や出展概要などを見ることが出来ます。会場にいらっしゃる前に、各者の出展内容を予習してみても如何でしょうか。http://www.g-expo.jp/forum/exhi_vender.html	130	779
	10月12日14:00～日本測量協会主催シンポジウム開催いたします。http://gexpo2017-symposium.jp/1012.html#day1-4G空間EXPO講演シンポジウムの中で、10月12日14時から、「来たれ、UAVを用いた公共測量への挑戦者たち」と題して日本測量協会主催のシンポジウムを開催いたします。	26	649
9/13	地理空間情報フォーラム2017公式ページリニューアルいたしました！http://www.g-expo.jp/forum/会期は来月、10月12日(木)～14日(土)です。○出展者一覧http://www.g-expo.jp/forum/exhi_vender.html○各種イベント情報http://www.g-expo.jp/forum/experience.html	128	623
	G空間EXPO2017ではブレイベントとして、来る9月20日、「北陸G空間フォーラムin新潟」を開催いたします。http://www.g-expo.jp/nigata/index.htmlただいま参加者事前登録受付中です。会場は朱鷺メッセ(新潟市中央区万代島6番1号)です。定員がございますので、ご興味のおありの方はお早め	85	495
	G空間EXPO2017公式ページリニューアルされました！http://www.g-expo.jp/	83	410
8/30	G空間EXPO2017のブレイベントとして、「北陸G空間フォーラムin新潟」の開催告知が公開されました。http://www.g-expo.jp/開催:2017年9月20日(水)会場:朱鷺メッセ(新潟市中央区)参加費は無料、事前登録制定員最大150名です。詳細は、G空間EXPOホームページをご覧ください。	31	327
8/28	地理空間情報フォーラム2017公式サイト、近日オープン予定！今年のG空間EXPO2017/地理空間情報フォーラム2017の会期は、10月12日(木)～14日(土)と、例年より1ヶ月ほど早い開催です。現在G空間EXPO2017のティザーサイトでは、地理空間情報フォーラム2017「測量コンテスト」の参加者を募集	2	296
8/16	地理空間情報フォーラムー広がる測量・地理空間情報の世界ーGEOINFORMATIONFORUMJAPAN企業・団体・機関等の展示・体験イベント等により、日本のG空間社会を支える最先端の技術やサービス等を紹介します。出展各者による高度で専門的な展示会、フォーラム、体験イベントなどを通じ、	0	294
8/14	G空間EXPO2017地理空間情報フォーラム2017では日本のG空間社会を支える最先端の技術やサービスを展示することで広く皆様にご紹介するだけでなく、より身近な事として各出展者ブースで実際に「体験」していただくこともできます。近日中に地理空間情報フォーラム2017の公式ホームページも立ち	2	294
	地理空間情報フォーラム2017では「測量コンテスト」の参加者を募集しております。http://www.g-expo.jp/#presenter02↑こちらから募集手引き等ダウンロードできます。3人1組で、日本科学未来館のGeoコスモスー月球儀間の距離を測り、その精度を競います。募集締切は9月15日(金)17時までです！	7	292
8/7	G空間EXPO2017「地理空間情報フォーラム2017」ー地理空間情報フォーラムとはー展示・体験イベント等により、日本のG空間社会を支える、企業・団体・機関等の最先端の技術やサービス等をご紹介します。展示・体験イベントです。出展各者による高度で専門的な展示を通じ、G空間社会についてもっと知りたい	78	285
8/4	地理空間情報フォーラム2017「測量コンテスト」参加者募集中ただいま地理空間情報フォーラム2017事務局では、測量コンテスト参加者を募集しています。詳しくは、G空間EXPO内のページから、募集手引き等をダウンロードのうえ、ご確認ください。募集締切は9月15日(金)17時です。http://www.g-expo.jp/	96	207
	地理空間情報フォーラム2017事務局に詳細情報をチェックできるボタンが追加されました。	0	111
	地理空間情報フォーラム2017事務局が基本データを更新しました。	0	111
	地理空間情報フォーラム2017事務局さんのカバー写真	0	111
8/2	今年の開催は10月12日(木)から14日(土)までの3日間。東京・お台場の「日本科学未来館」での開催です。地理空間情報フォーラム2017は【地理空間情報科学で未来をつくる】というG空間EXPOの統一テーマのもと、児童生徒から社会人までの幅広い来場者層を対象とした無料のイベント(展示イベント)です。	111	111
	地理空間情報フォーラム2017のフェイスブックを公開しました。	0	0
8/1	地理空間情報フォーラム2017事務局	0	0

実施報告

7.会場記録写真



国土交通省 秋元副大臣



日本科学未来館 毛利館長



日本測量協会 矢口会長



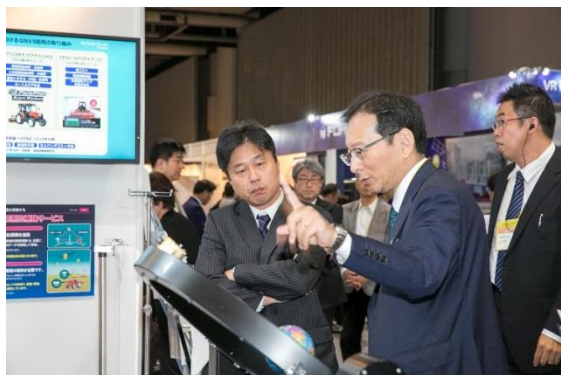
衛星測位利用推進センター 岡部理事長



テープカット



国土交通省 北本政策統括官



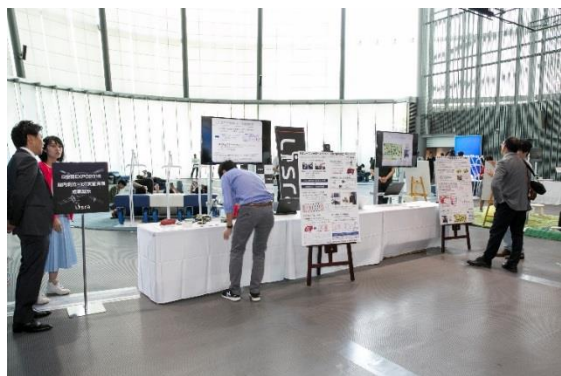
内閣官房 平井審議官



うみまる うーみん マッピー

実施報告

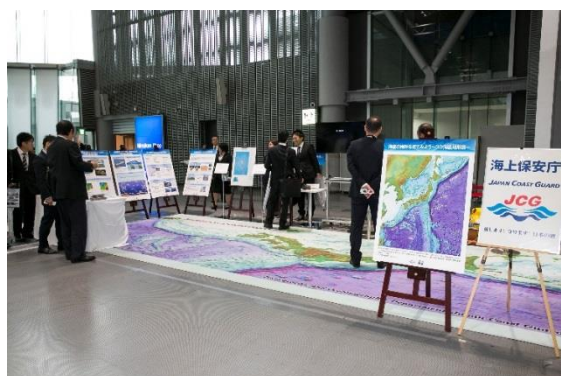
7.会場記録写真



メッセージゾーン Lisra



メッセージゾーン 日本科学未来館



メッセージゾーン 海上保安庁



Geoアクティビティコンテスト



Geoアクティビティコンテスト



Geoエデュケーションプログラム



Geoエデュケーションプログラム



ソクジョカフェ

実施報告

7.会場記録写真



総務省統計局キャラクター



うーみん うみまる マッピー



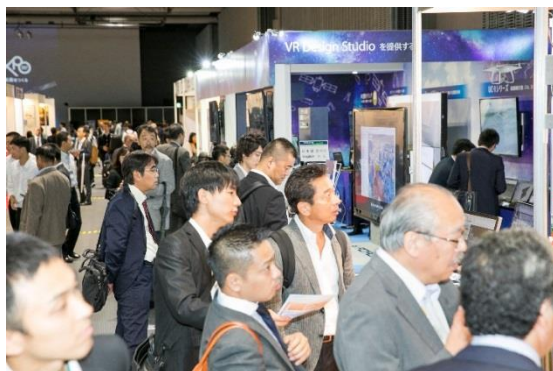
会場内



会場内



会場内



会場内



測量船「明洋」



測量船「明洋」

5. Geoアクティビティコンテスト

主催：国土交通省（国土政策局・国土地理院）

実施概要

■ Geoアクティビティコンテスト

G空間情報に関する独創的なアイデア、ユニークな製品、画期的な技術等を持つ中小・ベンチャー企業、大学関係者、NPO法人等による展示やプレゼンテーションの機会を提供し、関係者間の交流を促進しました。展示やプレゼンテーションを行うプレゼンターは一般公募し、選考の上決定しました。プレゼンターには、会場においてアイデアや製品等の展示やプレゼンテーションを行っていただきました。

また、プレゼンテーションについては審査委員による審査を行い、優秀な作品については表彰を行いました。

名 称	Geoアクティビティコンテスト
開催期間	平成29年10月12日（木）13日（金）14日（土） 10:00～17:00 （12日：展示／13日：展示・プレゼンテーション／14日：展示・表彰式）
会 場	展示：1階 企画展示ゾーンb プレゼンテーション：1階 企画展示ゾーンb（メインステージ） 表彰式：1階 企画展示ゾーンb（メインステージ）

プレゼン・展示内容

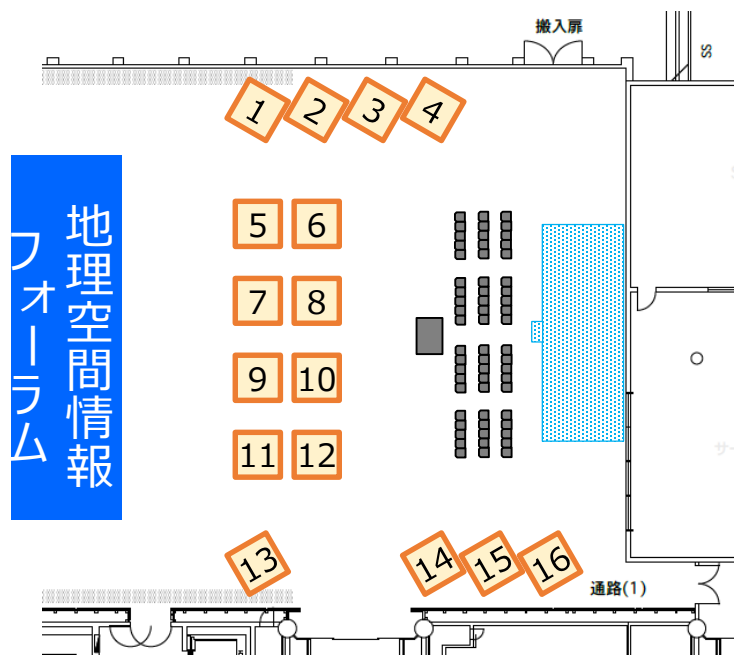
G空間情報を活用したアプリ、システム、機器、端末、サービス、技術、地図成果、研究成果、活用事例等を対象（既存のサービス、製品や、完成途中のものやアイデア段階のものも含む）

審査委員一覧 ※順不同、敬称略

委員長	関根 智子	日本大学 文理学部地理学科 教授
委員	石川 初	慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 教授
	山本 佳世子	電気通信大学大学院 情報理工学研究科 准教授
	土居原 健	一般財団法人 日本デジタル道路地図協会 研究開発部長
	伊藤 香織	東京理科大学 理工学部建築学科 教授
	坂下 哲也	(一財) 日本情報経済社会推進協会 電子情報利活用研究部長 常務理事
	片岡 義明	フリーランスライター
	大場 亨	千葉県市川市 経済部次長
	吉田 泰己	経済産業省 商務情報政策局情報政策課 情報プロジェクト室長補佐
	江藤 洋一	国土交通省 国土政策局国土情報課 企画専門官
	出口 智恵	国土交通省 国土地理院地理空間情報部 情報普及課長
事務局		国土交通省 国土地理院企画部 地理空間情報企画室

出展者一覧

■ Geoアクティビティコンテスト 展示小間



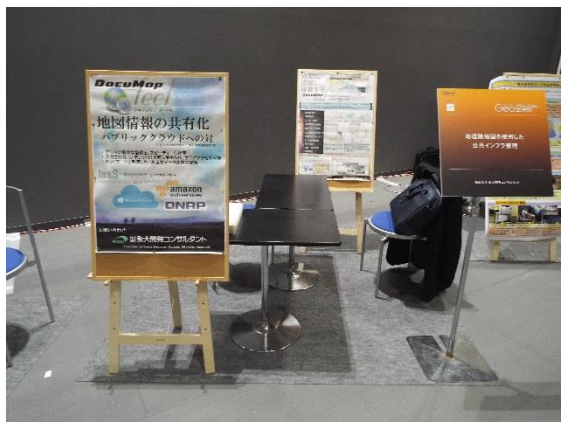
展開 小間番号	発表作品名	プレゼンター名
1	ドローンを用いた水稲圃場の低コストモニタリング手法の開発	愛媛県立伊予農業高等学校 環境開発科 村井 麻里亜
2	地理院地図を使用した公共インフラ管理	株式会社 永大開発コンサルタント
3	複合現実を用いた時空間情報システム	電気通信大学 牧野 隆平
4	【街歩きを楽しく、お得に。PASS】	株式会社ドリコム 吉田 優華子
5	奈良ユニバーサル観光マップ 一障がい者自身の現地調査に基づく案内ー	NPO法人フリーダム 2 1 田中 雅人
6	DataMap:データ駆動型地図表現ツールの開発	佐賀大学 芸術地域デザイン学部 杉本 達應
7	大学の授業から地域課題解決を志向する「まちづくりマップ」	「まちづくりマップ」プロジェクト代表 笹谷 康之
8	G空間情報の流通・利活用のための 「九州地理空間情報ポータル」	九州大学 地圏環境研究室 代表:岡島 裕樹
9	GISで小学生を笑顔にプロジェクト	坂井市教育委員会 学校教育課 北岡 武
10	災害時の指定外避難場所を探し出す	京都大学防災研究所 畑山研究室 西脇 文哉
11	-地図が読めなくても大丈夫- 動画で理解!わが家のハザードマップ	「動画で理解!わが家のハザードマップ」プロジェクト 代表:真野 栄一
12	数値標高モデルを活用した気象データ補間による 省エネルギー建築デザインの支援	秋田県立大学 佐藤 智穂・浅野 耕一
13	MIERUNE地図 - 独自デザインによるweb地図提供サービス -	MIERUNE Inc. 桐本 靖規
14	ディープラーニング de G空間データサイエンス! ～ 不動産価格推定を例として ～	(株) カナエジオマックス 小林 裕治
15	地図を手にして“探す楽しみ”をアプリでも 探索型周遊アプリ「MapPacker」	MapPackerチーム 小泉 貴義
16	足元の土の世界を見える化 日本土壌インベントリー&e-土壌図II	農研機構 農業環境変動研究センター 代表:前島 勇治

展示ゾーン

1. 発表作品名 **ドローンを用いた水稻圃場の低コストモニタリング手法の開発**
プレゼンター名 愛媛県立伊予農業高等学校 環境開発科 村井 麻里亜



2. 発表作品名 **地理院地図を使用した公共インフラ管理**
プレゼンター名 株式会社 永大開発コンサルタント



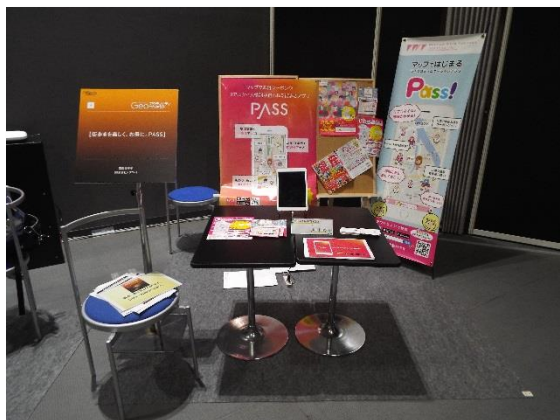
3. 発表作品名 **複合現実を用いた時空間情報システム**
プレゼンター名 電気通信大学 牧野 隆平



展示ゾーン

4. 発表作品名 【街歩きを楽しく、お得に。PASS】

プレゼンター名 株式会社ドリコム 吉田 優華子



5. 発表作品名 奈良ユニバーサル観光マップ

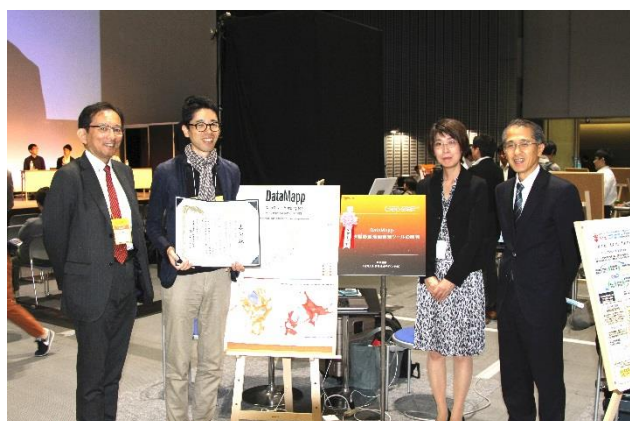
—障がい者自身の現地調査に基づく案内—

プレゼンター名 NPO法人フリーダム21 田中 雅人



6. 発表作品名 DataMap:データ駆動型地図表現ツールの開発

プレゼンター名 佐賀大学 芸術地域デザイン学部 杉本 達應



展示ゾーン

7. 発表作品名 大学の授業から地域課題解決を志向する「まちづくりマップ」

プレゼンター名 「まちづくりマップ」プロジェクト代表 笹谷 康之



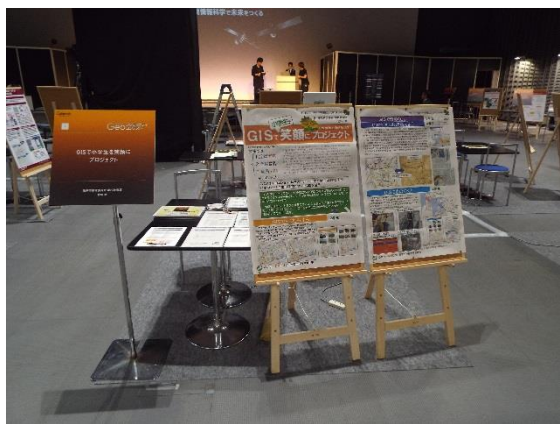
8. 発表作品名 G空間情報の流通・利活用のための「九州地理空間情報ポータル」

プレゼンター名 九州大学 地圏環境研究室 代表:岡島 裕樹



9. 発表作品名 GISで小学生を笑顔にプロジェクト

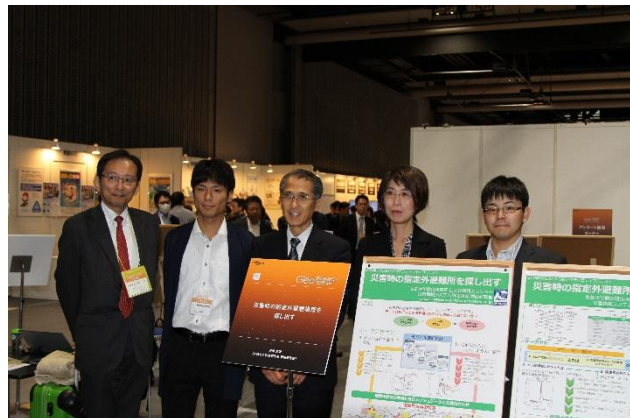
プレゼンター名 坂井市教育委員会 学校教育課 北岡 武



展示ゾーン

10. 発表作品名 災害時の指定外避難場所を探し出す

プレゼンター名 京都大学防災研究所 畑山研究室 西脇 文哉



11. 発表作品名 -地図が読めなくても大丈夫-動画で理解!わが家のハザードマップ

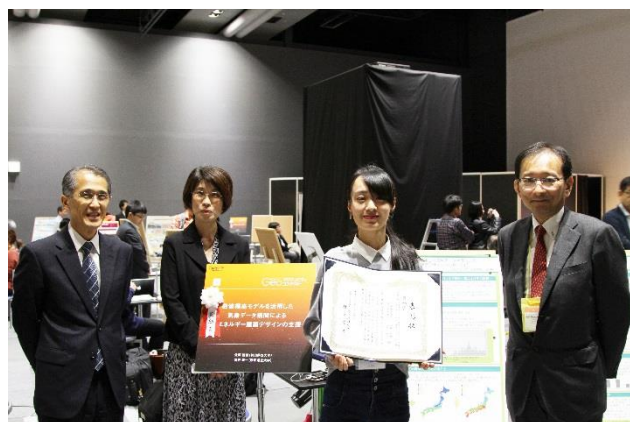
プレゼンター名 「動画で理解!わが家のハザードマップ」プロジェクト

代表：真野 栄一



12. 発表作品名 数値標高モデルを活用した気象データ補間による 省エネルギー建築デザインの支援

プレゼンター名 秋田県立大学 佐藤 智穂 浅野 耕一

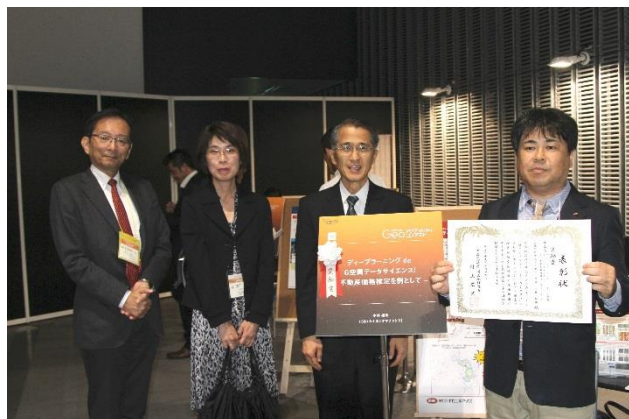


展示ゾーン

13. 発表作品名 **MIERUNE地図 - 独自デザインによるweb地図提供サービス -**
プレゼンター名 **MIERUNE Inc. 桐本 靖規**



14. 発表作品名 **ディープラーニング de G空間データサイエンス!**
～ 不動産価格推定を例として ～
プレゼンター名 **(株) カナエジオマチックス 小林 裕治**



15. 発表作品名 **地図を手にして“探す楽しみ”をアプリでも**
探索型周遊アプリ「MapPacker」
プレゼンター名 **MapPackerチーム 小泉 貴義**



展示ゾーン

16. 発表作品名 足元の土の世界を見える化

日本土壌インベントリー&e-土壌図II

プレゼンター名 農研機構 農業環境変動研究センター 代表：前島 勇治



■ Geoアクティビティコンテスト 展示会場風景



Geoアクティビティコンテスト 表彰式

■ Geoアクティビティコンテスト 表彰式

出展された作品は審査委員による審査が行われ、優秀な作品について表彰を行いました。

日時：平成29年10月14日（土） 12:00～12:25

場所：1階 企画展示ゾーンb（メインステージ）

賞名	発表作品名	プレゼンター名
最優秀賞	ドローンを用いた水稻圃場の低コストモニタリング手法の開発	愛媛県立伊予農業高等学校 環境開発科 村井 麻里亜
部門賞 電子国土賞	地理院地図を使用した公共インフラ管理	株式会社 永大開発コンサルタント
部門賞 教育効果賞	複合現実を用いた時空間情報システム	電気通信大学 牧野 隆平
	G I Sで小学生を笑顔にプロジェクト	坂井市教育委員会 学校教育課 北岡 武
部門賞 地域貢献賞	奈良ユニバーサル観光マップ ―障がい者自身の現地調査に基づく案内―	NPO法人フリーダム2 1 田中 雅人
部門賞 デザイン賞	DataMapp：データ駆動型地図表現ツールの開発	佐賀大学 芸術地域デザイン学部 杉本 達應
	-地図が読めなくても大丈夫- 動画で理解!わが家のハザードマップ	「動画で理解！わが家のハザードマップ」プロジェクト 代表：真野 栄一
奨励賞	【街歩きを楽しく、お得に。PASS】	株式会社ドリコム 吉田 優華子
	数値標高モデルを活用した気象データ補間による 省エネルギー建築デザインの支援	秋田県立大学 佐藤 智穂・浅野 耕一
	ディープラーニング de G空間データサイエンス！ ～ 不動産価格推定を例として ～	(株) カナエジオマチックス 小林 裕治
	足元の土の世界が見える化 日本土壌インベントリー & e-土壌図 II	農研機構 農業環境変動研究センター 代表：前島 勇治
来場者賞	-地図が読めなくても大丈夫- 動画で理解!わが家のハザードマップ	「動画で理解！わが家のハザードマップ」プロジェクト 代表：真野 栄一



6. GeoEデュケーションプログラム

主催：国土交通省（国土政策局）
一般社団法人地理空間情報学会

実施概要

■ Geoエデュケーションプログラム

(1) 概要

主に自治体職員及び教育関係者を対象とする研修等を実施、併せて一般来場者向けの講演、体験イベント、を実施した。

名 称 Geoエデュケーションプログラム

開催期間 平成29年10月12日（木）・13日（金）・14日（土）10：00～17：00

会 場 日本科学未来館 7F コンファレンスルーム水星・火星・金星、周辺屋外等

主 催 国土交通省（国土政策局）、一般社団法人地理情報システム学会

協 力 東京大学空間情報科学研究センター（CSIS）

(2) 実施内容

①研修プログラム、②講演プログラム、③屋外ガイドツアーから構成。

研修プログラムは、主な対象を自治体関係者、教育関係者としたが、一般からの参加も受け付けた。

講演プログラムと屋外ガイドツアーについては、研修プログラムと区別して一般来場者を呼び込むために「Geoアトラクションズ」と呼称しPRを行った。

①. 研修プログラム

(ア) Geoまち歩き企画を作成しよう [対象：自治体関係者・一般来場者]

各自治体の担当者を対象と想定し、何も無いように思われるような町における地理的なまち歩き企画を作ろうというワークショップを行い、まちの地理空間を再発見するためのまち歩き企画を具体的に作った。

(イ)平成34年度(2022年度)から実施 高校必修科目「地理総合」での空間情報の活用を探る [対象：教育関係者・一般来場者]

平成34年度(2022年度)以降、高等学校における「地理総合（仮称）」と「歴史総合（仮称）」の必修科目化が決まっているところ、「地理総合」で実践可能なGISを活用した授業のあり方を検討した。

②. 講演プログラム（Geoアトラクションズ）

○ 境界の深い世界 -地図に潜む土地の歴史-

地理空間情報も使い方次第で身近な土地についての思わぬ発見に結び付けることができることについて、「境界」を題材に講演を実施した。

③. 屋外ガイドツアー（Geoアトラクションズ）

○ G空間フィールドワーク「昔の地図を携えて街歩き、江戸・東京の発展を体感」

日本科学未来館の周辺を例にとり、江戸時代から、昭和、現在まで都市の発展過程を観察するガイドツアーを実施した。

④. 地理情報システム学会による表彰

○ 2017年度「初等中等教育におけるGISを活用した授業に係る優良事例表彰」

Geoエデュケーションプログラム（12日）

■研修プログラム Geoまち歩き企画を作成しよう

平成29年10月12日（木）

10:00 -12:00

午前のプログラムでは、地理情報システム学会自治体分科会の進行により、G空間情報の先進自治体職員が勤務する町を題材にして、町の観光、産業、自然、歴史などの各種資料を用いて、町の良いところや悪いところを参加者に検討していただいた。

13:00 -17:00

午後のプログラムでは、地理情報システム学会自治体分科会の進行により、町の地形や地質などに着目して、観光、産業、自然、歴史との関係を探り、その上で、地理的視点から町の特徴や成り立ちを体験できる「まち歩き企画」を作成、発表した。

講師（敬称略）

- ・進行及び講師：一般社団法人地理情報システム学会自治体分科会幹事（青木和人・浅野和仁・大場 亨・小泉和久・和田陽一）
- ・グループメンター：野間敬（防府市）、林由修（五泉市）、松田欣也（直方市）、丸田之人（室蘭市）、宮森健一郎（会津若松市）、山口成大（三重県）

会場 日本科学未来館 7F コンファレンスルーム水星・火星

参加者 自治体関係者等 18 名



Geoエデュケーションプログラム（13日）

■研修プログラム 平成34年度(2022年度)から実施 高校 必修科目「地理総合」での空間情報の活用を探る」

平成29年10月13日（金）

10:00 -12:00

2022年より必修科目として登場する「地理総合」に向けて文部科学省教科調査官による基調講演を行い、GISを活用している現職中高校教員による討議等を実施した。

13:00 -16:45

ワークショップとして、新指導要領に基づいたGISを活用した空間情報教育の事例としてオープンデータを活用した授業、デジタル地図データなどを活用した授業の事例、Pad、スマートフォン等を活用した授業事例を共有した。

講師（敬称略）

- ・司会進行：太田弘（慶應義塾普通部）
- ・基調講演：文部科学省教科調査官 濱野清
- ・ワークショップ講師：佐藤崇徳（沼津工業高等専門学校）、小林岳人（千葉県立千葉高校）、伊藤智章（裾野高等学校）、田中隆志（桐生女子高等学校）、東桂子（秋葉台中学校）、河合豊明（品川女子学院）
- ・コメンテーター：卜部勝彦（日本大学）、志村喬（上越教育大学）

会場 日本科学未来館 7F コンファレンスルーム金星

参加者 教育関係者等 21 名

Geoエデュケーションプログラム（14日）

■講演プログラム 境界の深い世界-地図に潜む土地の歴史-

平成29年10月14日（土） 11:00～12:00

日本地図センターの小林政能（地図中心編集長）氏に講師をお願いし、地理空間情報について使い方により身近な土地についての思わぬ発見に結び付けることができることについて、「境界」を題材に講義をしていただいた。

講師 小林政能（日本地図センター（地図中心編集長））（敬称略）
会場 日本科学未来館 7F コンファレンスルーム金星
参加者 22名



Geoエデュケーションプログラム（14日）

■屋外ガイドツアー G空間フィールドワーク「昔の地図を携えて街歩き、江戸・東京の発展を体感」

平成29年10月14日（土）10:15～12:15

東京スリバチ学会会長の皆川典久氏に講師をお願いし、日本科学未来館から第3台場までを往復、タブレット上で旧版地形図等を参照しながら、江戸時代から、昭和、現在まで都市の発展過程を観察するガイドツアーを実施した。

講師	皆川典久（東京スリバチ学会会長）（敬称略）
会場	日本科学未来館 から第3台場まで往復
参加者	13名

地理情報システム学会による表彰

■ 2017年度「初等中等教育におけるGISを活用した授業に係る優良事例表彰」

10月14日(土) 14:30～16:20

地理情報システム学会では、初等中等教育現場において GIS（地理情報システム）を実践的に活用した授業の普及・展開の契機とするため、授業において先導的な取り組みを実践している教員やグループを対象とする表彰制度を 2010 年度から実施、2017年度に以下の 4 者を選定し、表彰を行った。

第1部として、優良事例表彰 挨拶と講評、表彰式を実施、第2部として、授賞者による事例発表を行った。

【受賞者】（敬称略）

国土交通大臣賞

伊藤 悟（金沢大学）

「初等中等教育におけるGIS利用の啓蒙・支援と、新たな利用方法の開拓」

地理情報システム学会賞

特定非営利活動法人 伊能社中

「中学校社会科地理的分野におけるGISを活用した防災教育プログラムの実践」

日本地図センター賞

黒川正章（ロスカラコレス代表）

「GIS技術を用いて、等高線を強調した木製立体地図、「はだちず」による地理教育」

毎日新聞社賞

北岡 武（坂井市教育委員会）

「GISで小学生を笑顔にプロジェクト」



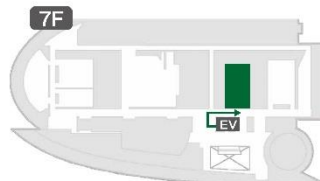
インフォメーション

■ インフォメーションパネル

プログラム概要を記載したパネルを制作、インフォメーションに活用した。

G空間EXPO2017 Geo エデュケーション プログラム

G空間情報で変わる
教育や暮らしを体験しよう



会場：日本科学未来館 東京都江東区青海2-3-6

主催：国土交通省(国土政策局)・(一社)地理情報システム学会

※事前登録が必要なプログラムです。ただ当日の空き状況次第で参加も可能です。

10/12木

Geoまち歩き企画を 作成しよう※

自治体関係者・一般来場者

何気もない町における地理的なまち歩き企画を作ろうというワークショップです。まちの地理空間を再発見するためのまち歩き企画を具体的に作っていきます。何気もない地方のまちにどのような地域資源があって、それらがどのような地理的要素が関係しているのかを探ります。

定員：60名程度(先着)

※GIS上級技術者認定申請を行う場合のポイント加算の証明として利用できる受講証を発行

10:00-12:20

午前のプログラムでは、地理情報システム学会自治体分科会の進行で、G空間情報の先進自治体職員が勤務する町を題材にして、町の観光、産業、自然、歴史などの各種資料を用いて、町の良いところや悪いところを発見していただきます。

13:20-17:00

午後のプログラムでは、地理情報システム学会自治体分科会の進行で、町の地形や地質などに着目して、観光、産業、自然、歴史との関係を探っていきます。そして、地理的視点から町の特徴や成り立ちを体験できる「まち歩き企画」を作成します。

進行及び講師：一般社団法人地理情報システム学会自治体分科会幹事(青木和人・浅野和仁・大場 亨・小泉 和久・和田勝一) グループメンター：野間 敬(防府市)、林 由修(五泉市)、松田 欣也(直方市)、丸田 之人(室蘭市)、宮森 健一朗(会津若松市)、山口 成大(三重県)

10/13金

平成34年度(2022年度)から実施 高校必修科目「地理総合」指導要領 公開直前 空間情報教育を想定する※

教育関係者・一般来場者

平成34年度(2022年度)以降、高等学校における「地理総合(仮称)」と「歴史総合(仮称)」の必修科目化が決まっております。学校GIS教育の第一線に関わる実践者(太田弘・慶應義塾普通部教諭ほか)にコーディネートをしていただき、「地理総合」で実践可能なG空間オープンデータやWeb-GISなどを活用した授業のあり方を一緒に検討します。

定員：60名程度(先着)

10:00-12:20

前半は、2022年より必修科目として登場する「地理総合」に向けて文部科学省教科調査官の深野清による基調講演を行います。後半はそれを受けて、GISを活用している現職中高校教員によるワークショップを開催します。

10:15 ~ 11:00 (40分) 基調講演
文部科学省 教科調査官 深野 清氏

13:00-16:30

午後のワークショップでは、オープンデータの活用、Web-GISやデジタル地図データなどを活用した授業事例を想定します。GIS実践優秀者が最新の活用事例を一挙公開します。

基調講演：文部科学省 教科調査官

深野 清
ワークショップ講師：佐藤 崇徳(沼津工業高等専門学校)、小林 岳人(千葉県立千葉高校)、伊藤 智章(姫野高等学校)、田中 隆志(桐生女子高等学校)、東 桂子(秋葉台中学校)、河合 豊明(品川女子学院)
コメンテーター：ト部 勝彦(日本大学)、志村 喬(上越教育大学)
司会進行：太田 弘(慶應義塾普通部)

10/14土

Geo アトラクションズ

一般来場者

地理空間情報になじみのある方もない方も、大人から子どもまで楽しめる学習イベントをご用意しています。

講演と屋外巡検を実施します。

10:00-12:20

G空間フィールドワーク

「昔の地図を携えて街歩き、江戸・東京の発展を体感」※

日本科学未来館のあるお台場地区は、古くは江戸時代までさかのぼり、昭和、現在まで都市の発展過程を観察するにはうってつけのところです。恒例となりましたが東京スリパチ学会会長の植川先生に解説をお願いし、いつもと一味違う街歩きをご体験いただきます。

講師：東京スリパチ学会
会長 植川 典久氏

集合：1F多目的ルーム

11:00-12:00

境界の深い世界
-地図に潜む土地の歴史

奥の深い「境界」の世界について、地図を使うプロフェッショナルである日本地図センターの小林政能先生(地図中心編集長)にお話いただく講演プログラムです。地理空間情報も、使い次第で身近な土地についての思わぬ発見に結び付けることができます。どんな様でもご参加いただけます。

講師：境界協会主宰、日本地図センター
地図中心編集長 小林 政能

Webページにアクセス！ www.g-expo.jp/geoedu/

お問い合わせ：国土交通省国土政策局課 Tel:03-5253-8383(直通)



7. 講演・シンポジウム

主催：G空間EXPO 講演・シンポジウム実行委員会

G空間EXPO2017 講演・シンポジウム

名 称 G空間EXPO2017 講演・シンポジウム

開催期間 平成29年10月12日（木）、13日（金）、14日（土）10:00～17:00

会 場 7階 未来館ホール／イノベーションホール／コンファレンスルーム天王星／
コンファレンスルーム土星

2017年は、準天頂衛星が3機打ち上げられ、2018年度の高精度測位サービスの本格運用を前に、高精度測位社会実現の機運がますます高まりました。

このG空間社会を支える最新情報や研究成果発表、業界・技術動向などを発信することにより、高度な地理空間情報の世界を知っていただく場として、本年度の講演・シンポジウムは、「GISと衛星測位のフュージョン（融合）」、2017年3月に閣議決定されました地理空間情報活用推進基本計画における13のシンボルプロジェクトなどをテーマに、G空間社会への理解を深めるための講演やシンポジウム、G空間社会を支える最新情報や研究成果発表、業界・技術動向の紹介、ワークショップなど、12の関係団体によりさまざまなプログラムが実施されました。

講演・シンポジウム プログラム

- ・みちびきGO!GO!GO!～準天頂衛星システム講演会～
- ・gコンテンツワールド2017
- ・来たれ、UAVを用いた公共測量への挑戦者たち
- ・G空間をしごとにする～若手が語る夢と魅力～
- ・SPACシンポジウム2017
- ・宇宙技術・地理空間技術を利用した社会イノベーション
- ・地籍と災害～今の社会問題を考える～
- ・G空間情報センターユーザ会
- ・地球観測の科学利用と実利用の新たな展開
- ・時空間を旅する歴史の見方・地理の見方
- ・CSISシンポジウム「空間における社会経済ネットワーク」
- ・女性と地図とのいい関係を探る！

プログラム一覧

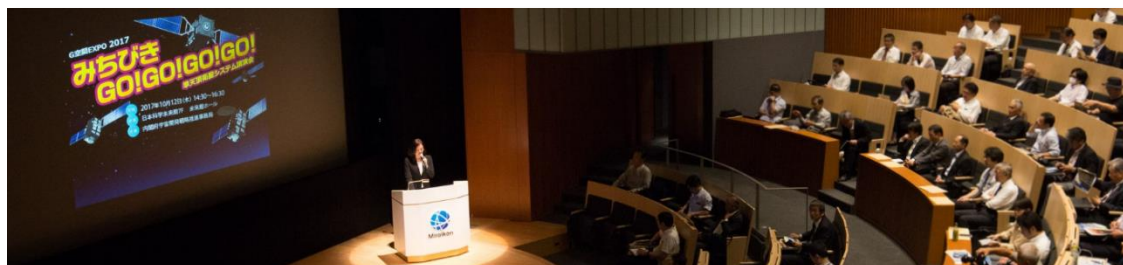
	10/12(木)	10/13(金)	10/14(土)
未来館ホール	② 午後／受付開始 14:00 みちびきGO!GO!GO!GO! ～準天頂衛星システム講演会～ 内閣府宇宙開発戦略推進事務局 事前参加登録が必要です	② 午後／受付開始 14:00 SPACシンポジウム2017 一般財団法人 衛星測位利用推進センター 事前参加登録が必要です	-
イノベーションホール	② 午前の部は都合により中止となりました 午後／受付開始 12:30 gコンテンツワールド gコンテンツ流通推進協議会 一般財団法人日本情報経済社会推進協会 事前参加登録が必要です ※当日申し込み可	② 午後／受付開始 12:30 宇宙技術・地理空間技術を利用した社会 イノベーション～宇宙・地理空間情報技 術を使った社会課題解決型人材育成のあ るべき姿～ GESTISS(一社)宇宙地理空間技術による革新的社会 サービスコンソーシアム 事前参加登録が必要です	② 午後／受付開始 13:30 時空間を旅する歴史の見方・地理の見方 (公社)日本地理学会
コンファレンスルーム土星	② 午後／受付開始 13:30 来たれ、UAVを用いた公共測量への挑戦者たち 公益社団法人日本測量協会 事前参加登録が必要です ※測量CPDポイントの対象	② 午前・午後／受付開始 10:00 地籍と災害～今の社会問題を考える～ 日本土地家屋調査士会連合会	② 午後／受付開始 13:45 CSISシンポジウム2017 「空間における社会経済ネットワーク」 東京大学空間情報科学研究センター
コンファレンスルーム天王星	② 午後／受付開始 14:00 (パネルディスカッション) G空間をしごとにする～若手が語る夢と魅力～ 広報推進協議会(測量・地図作成分野)	② 午前／受付開始 10:00 G空間情報センターユーザ会 (一社)社会基盤情報流通推進協議会 ② 午後／受付開始 13:35 地球観測の科学利用と実利用の新たな展開 一般社団法人日本写真測量学会 一般社団法人 日本リモートセンシング学会	② 午後／受付開始 13:15 ワークショップ 「女性と地図とのいい関係を探る！」 日本地図学会

*各プログラムの詳細は<http://www.g-expo.jp/>の「講演・シンポジウム」ページでご覧いただけます。

■ みちびきGO!GO!GO!GO!

～準天頂衛星システム講演会～

実施者：内閣府宇宙開発戦略推進事務局



■ 主催者挨拶／講演（内閣府宇宙開発戦略推進事務局 参事官 滝澤豪）

滝澤参事官は、前々日の10月10日にみちびき4号機の打ち上げが無事に成功したことを報告し、「これで来年度からのみちびき4機体制のスタートが可能になりました。」と語りました。

さらに、スマート農業や土木建設、自動運転など、みちびきの活用例を紹介し、衛星測位の関連市場が国際的に年々拡大していることを説明した上で、IoTや、その先端技術を用いて人々の生活の質を向上させるスマートシティ構想、そして、物流、ビッグデータなど、衛星測位の関連ビジネスには大きなチャンスが広がっているとの展望を述べました。

■ 招待講演

①「準天頂衛星システムを活用したスマート農業」 （北海道大学大学院農学研究院 野口伸教授）

野口教授は、すでに手放し運転が可能なRTKを使用したオートステアリングシステムが普及しており、2018年にはロボット農機による無人作業システムの普及が進むと語りました。

そして、前日、北海道大学にて実施した、世界初のCLAS受信機を使用したロボット農機の隊列走行(実証実験)を映像で紹介し、みちびきの高精度な測位性能を報告しました。

②「土木建設における衛星利活用 ～測位技術が施工を変える～」 （株式会社大林組 土木本部本部長室情報技術推進課 杉浦伸哉課長）

杉浦氏は、衛星測位の活用範囲が今後ますます拡大していくとして、これまでは主に「土木工事」の施工において利用されていたものが、今後は「構造物」の施工にも適用が進んでいくとの見通しを示しました。そのため、みちびきに他の技術も組み合わせることで更なる精度の向上を図り、活用範囲が広がっていくことを、業界全体が期待していると語りました。

③「ナイトレイのロケーションデータ解析事業とGPSデータ活用事例」 （株式会社ナイトレイ 石川豊代表取締役）

石川氏は、「ロケーションデータ解析事業」の取り組みと、訪日外国人動向解析サービス「inbound insight（インバウンド インサイト）」の活用事例について紹介しました。

その上で、みちびきによって、より精度の高い解析が可能となれば、一つ一つのデータの価値も向上すると説明し、「ロケーションデータは当社の事業においてももっとも重要であり、そのデータの質の向上にとっても期待しています。」と述べました。

実施報告

■gコンテンツワールド2017

実施者：一般財団法人日本情報経済社会推進協会(JIPDEC) gコンテンツ流通推進協議会

2017年10月12日木曜日、G空間EXPO2017の初日の午後、日本科学未来館7階イノベーションホールにおいてgコンテンツワールドを開催しました。基調講演1では経済産業省 商務情報政策局 情報政策課 情報プロジェクト室 室長 中野氏よりデジタルガバメントに関する経済産業省の取組について紹介された。続く基調講演2では林野庁 森林整備部 計画課 企画官 池田氏により日本におけるICTを活用した林業の現状と展望について紹介された。

次のIoTの推進をテーマにした講演では、一般社団法人東京ハイヤー・タクシー協会 環境・車両資材委員長、境交通株式会社 代表取締役社長 根本氏と、みずほ情報総研(株) マネジャー 平古場氏の両氏から東京におけるタクシーのIoT化について解説された。続いてID連携をテーマにした講演でヤマトシステム開発(株) 小林氏より、自治体福祉チケットのデジタル化について紹介された。

その後の講演1ではJR東日本コンサルタンツ(株) 取締役 小林氏より屋内測位環境の整備とビーコン利活用に向けてJRの取り組みが紹介された。最後の講演2では(株)JTBCコーポレートセールス マネージャー 高知尾氏より、小さな地域とサービス事業者の、生産性向上と消費の拡大に向けたプラットフォームの構築について解説いただいた。



■ 来たれ、UAVを用いた公共測量への挑戦者たち

実施者：公益社団法人 日本測量協会

UAVの安全運航に関する講演から適用可能な地理的範囲を把握し、さらに公共測量へ挑戦して実績を上げている会社、公共測量への適用が求められている分野で挑戦されている会社から、それぞれ測量手法やセンサの特性、課題などを提供頂きました。また、空中写真からの三次元点群データ作成の特性に触れ、これらを踏まえUAVを用いた公共測量へ挑戦している方々から意見をもらい、UAVを公共測量で活用するための方向性を示す議論を行いました。

■（パネルディスカッション） G 空間をしごとにする～若手が語る夢と魅力～

実施者：広報推進協議会（測量・地図作成分野）

【概要】

G空間に関心のある学生に対して、仕事の内容やこの業界の面白い部分等を紹介し、多様な経歴の人達が多様な業務において活躍していること、及びこの分野の夢や魅力を感じてもらうことを目標に、広報推進協議会（注）主催によるパネルディスカッションを開催しました。



【開催報告】

測量・地図分野で働く若手社員から、「今後やりたい仕事」「この業界を選んだ理由」「働き方と生活のバランス」「女性のキャリアアップと働きやすさ」「履修した学業と仕事との関係」などのテーマについて語って頂き、また、測量の専門学校の先生からは「専門学校の強み」や「社会人の再教育（再入学）」などについてご紹介頂き、これからこの業界に就職したいと考える学生達に、この業界の魅力を訴えました。

（注）測量に関する国民の理解や関心を高め、測量業界全体が一層発展することを目指して、産学官の関係者で構成された協議体です。（<http://sokuryo-koho.com/>）

（広報推進協議会事務局 国土地理院）

実施報告

■SPACシンポジウム2017

実施者：主催 一般財団法人衛星測位利用推進センター

共催 一般社団法人日本経済団体連合会

後援 内閣府宇宙開発戦略推進事務局

講演・シンポジウムの共通テーマ「GISと衛星測位のフュージョン（融合）」の下、「測位と地図」及び「衛星測位の利活用に係るトピックス」等のテーマを講演していただき、参加者は250名でした。主な内容は次のとおりです。講演資料は、SPAC HP（<http://www.eiseisokui.or.jp>）をご覧ください。

(1) 基調講演：準天頂衛星システム時代の測位と測量

[村上 広史、国土交通省 国土地理院 院長]

米国GPSの登場と日本の電子基準点活用により、測位と測量の融合という課題が生じました。この課題解決のため、測量行政懇談会の測位基盤検討部会で検討を始めました。「測位と測量」については、準天頂衛星システムの運用開始に伴い、測位と測量の融合が進展し、相互の便益享受が期待できます。また、国土地理院は、電子基準点網の整備により、高精度測位社会の実現に不可欠なインフラの維持管理・高度化を今後とも推進して参ります。

(2) 「ドローンハイウェイ構想」の内容とQZSSへの期待

[藤沢 秀幸、(株)ゼンリン 上席執行役員 第二事業本部長]

ドローンの2020年の市場規模は現在の10倍の約1,500億円が見込まれます。ドローン自動飛行システムには空の3次元地図、通信技術、プローブ収集・解析技術が必須です。ドローンが飛行するジオフェンスルートの策定にはサブメーター級以上の高精度測位が必要であり、ここにQZSSを期待しています。

(3) ドローン・ロボット開発の実証フィールド「福島ロボットテストフィールド」の整備

[北島 明文、福島県 ロボット産業推進室 室長]

「福島イノベーション・コースト構想」の一つである福島ロボットテストフィールドは、各種ロボットの開発・実証が可能な施設です。同フィールドは、無人航空機エリア、水中・水上ロボットエリア、インフラ点検・災害対応エリア、開発基盤エリアに分かれており、H30年度以降に順次開所予定です。

(4) ウェアラブル・AR・IoTと屋内外位置測位によるIoXソリューション

[賀屋 恵二、新日鉄住金ソリューションズ(株) IoXソリューション事業推進部 専門部長]

クラウドのビッグデータを活用し、人とモノが高度に連携・協調するソリューションをIoXソリューションと称しています。IoXのプラットフォーム上には、作業ナビゲーションAP等カスタマイズ可能な各種APがあり、作業者の支援や安全に寄与することができます。

(5) 準天頂衛星初号機“みちびき”を利用した実証 全容とQZSS受信機の動向

[松岡 繁、SPAC国内事業担当部長]

SPACは「みちびき」初号機より民間の利用実証を支援しており、2017年9月まで144件、2017年9月以降はQZSSと連携して42件実施しています。

QZSS受信機の新しい動きとしては、GoogleがAndroid OSのスマートフォンからGNSSの観測データを出力するAPIを発表しました。これにより、益々、位置情報ソリューションの高精度化と活用が推進されと考えられます。



SPACシンポジウム2017の会場風景

実施報告

■ シンポジウム

宇宙技術・地理空間技術を利用した社会イノベーション ～宇宙・地理空間情報技術を使った 社会課題解決型人材育成のあるべき姿～

実施者：

慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科

東京大学 空間情報科学研究センター

東京海洋大学大学院 海洋科学技術研究科

事業構想大学院大学 事業構想研究科

青山学院大学 地球社会共生学部

GOOD DESIGN賞受賞発表



会場の様子

「グローバルな学び・成長を実現する社会課題解決型宇宙人材育成プログラム（G-SPASE プログラム、<http://gestiss.org>）」は、課題の発見や分析から実際の解決に至るまでの社会課題解決の全ライフサイクルを念頭に入れ、そのための人材育成と国内外でのネットワーク作り、プログラム運営を更に持続的、発展的に行うための取り組みを行っています。具体的には、タイやフィリピン、インドネシア、ミャンマーなどのアジア太平洋地域の大学や政府機関、企業、そしてアジア開発銀行などの国際機関と連携し、現地の多様な社会課題を対象とした解決のためのプロジェクトを創出・推進しています。本シンポジウムでは、6年間継続した教育プログラムの成果を紹介し、人材育成のあるべき姿、今後の可能性についての議論を行いました。G-SPASEプログラムの活動紹介、3人の招待講師による基調講演、6人の学生による5分間の研究発表、研究ポスター展示、パネルディスカッションが行われ、総勢52名の来場者にお越しいただきました。

はじめに、GESTISSコンソーシアム代表の東京大学教授空間情報科学研究センター柴崎亮介教授から挨拶があり、準天頂衛星みちびき4号機の打ち上げ成功を祝し、アジア地域も含めた準天頂衛星の利用拡大に向けた活動について紹介が行われました。次に、慶應義塾大学システムデザイン・マネジメント研究科神武直彦准教授から、6年間継続したG-SPASEプログラムから17カ国・200名以上の修了生を輩出した実績や本プログラムが2017年10月4日（水）に公益財団法人日本デザイン振興会が主催するGOOD DESIGN AWARDの教育・推進・支援手法部門においてGOOD DESIGN賞を受賞したことが報告されました（www.g-mark.org/award/describe/46020）。

G-SPASEプログラムでは、学生同士が自分の専門知識や経験を他の学生に教え合うことで、自分自身の学びの向上に繋げることを大切にしています。その取り組みの一環として、慶應義塾大学の西野瑛彦助教により、2017年4月から7月にかけて東京大学・慶應義塾大学の研究員と渋谷教育学園渋谷中学高等学校の高校生が一緒に活動した、渋谷を対象とした社会課題解決プロジェクトについて紹介が行われました。5つの高校生チームが問いを立て、地理空間情報技術を駆使して課題に挑戦しました。この活動は、読売教育ネットワークの取材も受けており、活動の詳細は全国紙にも掲載されました。

続いて、修士・博士課程の6人の学生が、タイ・バンコクにおけるタクシーブロー利用による渋滞緩和、機械学習とGISを用いた農業マイクロファイナンスの仕組み構築、高精度自動草刈機の開発などの研究テーマに基づいて、各5分の成果発表を行いました。更に、パネルディスカッションでは、ネパールとザンビアからの留学生も含め、G-SPASEプログラムに参加した動機、G-SPASEプログラムの長所や課題、今後の方向性について議論を行いました。単位認定がないG-SPASEプログラムと修士・博士研究との両立、修士学生と博士課程の学生に対する指導の区別、モチベーションを維持するための最適なプログラム期間、学生だけでなく社会人を対象としたプログラムの設計などについて意見交換が行われました。

（岩澤、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科）

実施報告

■地籍と災害～今の社会問題を考える～

実施者：日本土地家屋調査士会連合会

日本土地家屋調査士会連合会（日調連）では「地籍と災害～今の社会問題を考える～」をメインテーマに、午前（下記1～2）は「社会問題解決のための地籍」、午後（下記3～6）は「地籍と災害」をテーマとしたシンポジウムを行いました。概要を報告します。

1 研究報告「地籍情報を中心とした一元的土地行政情報管理のための標準化の必要性」

報告者 山中 匠（土地家屋調査士・日調連 研究所研究員）

地籍、L A S（Land administration System）、土地管理標準化、ニュージーランドにおける事例報告（LINZ）、日本でのLADM準拠システムの必要性、合理的な土地管理システム実現の重要性について説明がされました。

2 事業報告説明「土地家屋調査士調査情報保全管理システム「調査士カルテMap」について」

報告者 三田哲矢（土地家屋調査士・日調連 常任理事）

中尾隆之（株式会社ゼンリン 事業企画本部）

日調連監修の下、株式会社ゼンリンが事業を進めている土地家屋調査士が持つ業務情報の保全管理システム「調査士カルテMap」について、事業の進捗状況と意義や機能面について説明が行われました。

3 基調講演 1「地名と災害の関係」

講演者 今尾恵介（一般社団法人日本地図センター 客員研究員）

昨今、「地名」と「災害」との関係が注目されていますが、先人がその災害を示唆する地名を付けている土地もあるものの、当て字も多く、一見しただけではわからない場合も多く、災害と全く無関係な場合もあるので注意が必要であること。また、地名にはその土地で安全に生活することに必要な意味がある場合もあるので、自分が住んでいる地名の過去の変遷や意味を知っておくことは、防災の観点からも必要なことなど地名と災害の関係性についてお話しいただきました。

4 基調講演 2「熊本地震に伴う地籍図等の早期復旧支援」

講演者 小門研亮（国土交通省 土地・建設産業局地籍整備課 企画専門官）

熊本地震による地殻変動に伴う地籍図等の早期復興支援としての国土交通省による活動について報告されました。熊本県の地籍調査は82%完了されていて、その修正には座標補正パラメーターを使う方法と再調査の二種類の方法があるが、熊本では一部の空白地を除いて被災地域境界基本調査を行い早期に地籍図等を復旧することが可能となったということが報告されました。

5 災害報告 1「熊本震災の実態と熊本会の対応報告」

報告者 福岡鋭一郎（土地家屋調査士・熊本県土地家屋調査士会 副会長）

益城町に事務所を構える福岡氏から、地震発生直後からの地元の様子についてお話しいただくとともに、熊本県土地家屋調査士会が現在取り組んでいる震災への対応（建物の罹災状況調査、地図修正作業）について報告されました。

6 災害報告 2「災害対応における地籍図の利活用」

報告者 花島誠人（国立研究開発法人 防災科学技術研究所 主幹研究員）

防災科研の花島氏からは、所属する防災科研の説明と災害への取組事例、また災害対応には事前の調整・連携が不可欠で相互連携することも必要であること、特に地籍情報の整備の重要性について説明されました。

金関圭子・日本土地家屋調査士会連合会広報部長

実施報告

■ G空間情報センターユーザ会

実施者：一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会

G空間情報センターの運営1周年の節目にあたり、センターが実現してきたことをご紹介しますとともに、センターと連携頂いている関係者、各分野にてご活用頂いている関係者の皆様から利活用事例の紹介を頂き、センターの今後の活動についてご意見を頂きました。100名を超える方にご参加頂き、センター関係者及びユーザの皆様との間で活発な意見交換ができました。

The image is a collage of screenshots from the G Spatial Information Center website and its data portal. The top left shows the main homepage with a map of Southeast Asia. The middle left shows a search results page for 'データセット' (Data Set) with filters and a list of results. The middle right shows a detailed map of Japan with various data overlays. The bottom left shows a 'ニュース' (News) section with recent updates. The bottom right shows a 'データセットから探す' (Search by Data Set) section with a list of datasets and a '条件から探す' (Search by Condition) section. The bottom center shows a 'ショーケース' (Showcase) section with various data visualizations. The bottom right also shows a '通行実績データプレビュー' (Travel Record Data Preview) section with a map of Japan and a list of travel records.

■地球観測の科学利用と実利用の新たな展開

実施者：日本写真測量学会、日本リモートセンシング学会

リモートセンシングに関し、我が国の宇宙政策の概要、民間企業が開発した小型観測衛星の運用状況、ドローンの農業分野での利用、打上げが迫る“しきさい”衛星への期待、マイクロ波放射計による長期継続観測の意義、データ解析へのAI活用の取り組みなど、最新状況を講演いただくとともに、社会的課題解決のため多様なデータソース相互の協力、アカデミアと民間事業者の協力をいかに進めるかパネルディスカッションを行いました。

福田徹（（一財）リモート・センシング技術センター）

実施報告

■ 時空間を旅する歴史の見方・地理の見方

実施者：（公社）日本地理学会

ねらい：このシンポジウムでは、地域を題材とするテーマに対して、歴史学と地理学のアプローチの違いと共通点について、民俗考古学・古地図・土地利用史などの研究者から話題提供を頂き、それぞれの着眼点のユニークさと魅力を討議しました。

プログラムと講演者：

趣旨説明 一ノ瀬 俊明氏（研）国立環境研究所

講演「遺跡と地形 ―地形と生活の関係を探る―」安藤 広道氏 慶應義塾大学教授

「近世の山林景観を絵図から読み解く」渡辺 理絵氏 山形大学准教授

「東京における町名変遷とその推移」小島 豊美氏（株）ジャピール代表取締役・（一社）地歴調査技術協会代表理事

「歴史地図のGIS化と農業景観の変遷」D. スプレイグ氏（研）農業・食品産

業技術総合研究機構

パネルディスカッション 司会：一ノ瀬 俊明氏（研）国立環境研究所

講演とディスカッションのポイント：

講演では、歴史民俗学の視点（安藤氏）、地図学・歴史地理学の視点から（渡辺氏）、デジタル歴史文化空間地図作成の視点（小島氏）、歴史地図のデジタル化とGIS利用の視点（D. スプレイグ氏）から、それぞれ話題提供がありました。

ディスカッションでは、安藤氏に対しては水の獲得や防災の視点からの質問、渡辺氏へは村絵図から植生変遷図作成の可能性についての質問、小島氏へは寺社奉行や町奉行の管轄地域の図化の可能性についての質問、スプレイグ氏に対しては歴史地図のデジタル化による人間生活の復原の可能性について質問が出され、それぞれ活発な意見交換が行われました。



鈴木厚志（日本地理学会企画専門委員長・立正大学）

■ CSISシンポジウム2017 「空間における社会経済ネットワーク」

実施者：東京大学空間情報科学研究センター

東京大学空間情報科学研究センター、及び、国内外で行われている空間情報科学研究の理論と応用の多くの事例を通じて、今後の研究の在り方について広く論ずるシンポジウムとして実施された。地理学、経済学、情報科学、統計学、疫学、社会学など、様々な研究領域を母体とする空間情報科学は、情報科学技術の目覚ましい発展に伴い、この20年の間、急速な進展を見てきた。特に、近年の情報科学技術分野における革新は、空間情報取得・解析・表現の可能性を大きく広げ、空間情報科学研究が様々な学問領域に展開されていくことが期待されている。

そこで本シンポジウムでは、社会ネットワーク・空間ネットワーク分析に関する理論が、社会・経済的諸現象の分析にどのように応用されるのかに関する話題提供を通じて、空間情報科学研究の現状に至る経緯とその背景を振り返りつつ、今後のさらなる発展の方向性を探るものであった。

各講演者と講演内容は次のとおりであった。

1. 藤嶋 翔太 氏（東京理科大学経営学部・講師） 「ネットワーク理論とGPSデータを用いた都市圏の検出」
2. 青木 高明 氏（香川大学教育学部・准教授） 「実地形空間における都市・道路網のパターン形成」
3. 齊藤 有希子 氏（独立行政法人経済産業研究所・上席研究員） 「企業間ネットワークの地理空間的な広がり」
4. 岡崎 哲二 氏（東京大学大学院経済学研究科・教授） 「経済史から見た企業と人のネットワーク」
5. 戸堂 康之 氏（早稲田大学政治経済学術院経済学研究科・教授） 「災害の被害はグローバル・バリューチェーンを通じて国外にも伝播するのか？」

各講演を踏まえて、社会経済をキーとしながら工学や情報学、地理学など関連分野との相互連携がさらに重要であり、理論・実証双方からの解明が重要であると再認識された。



■ 女性と地図とのいい関係を探る！

実施者：日本地図学会

日本地図学会は2012年のG空間Expoで「女性と地図」の関連のテーマで第一回目のシンポジウムを開催しました。タイトルは「女子の地図力最前線“地図ガール”の感性と新マーケット」、それから5年、地図業界へ女性の進出は目覚ましく、地図の作り手の側に女性の数も増えました。また、その後も地図への女性の関心は高まり、女性向きのスマートフォンのアプリや地図の好きな女性を主人公にしたコミックスの出版、地図関連グッズなども目にすることが多くなりました。今回は2度目のシンポジウム、今、静かな「地図ブーム」を引っ張る「女性と地図とのいい関係」を解明すべく、女性の地図ユーザーと地図のメーカーの女性の担い手に登壇していただき、その「いい関係」の秘密を探ることが目的でした。登壇者としてユーザーは中学生の地図ファン、大学・大学院で地図を専攻する女子学生、地図メーカー側からは女性向け地図アプリなどスマートフォンの地図コンテンツを開発する会員などです。フロアーを交え、楽しく土曜の午後の「地図の女子会」を開催しました。

＜特別セッション＞「女性と地図とのいい関係を探る！」

八代 愛（ゼンリンデータコム）、森 順子（地理女net）、「地理×女子」（お茶の水女子大学）、中西 紀子さん（ゼンリンデータコム）、衿沢 世衣子さん（漫画家）、小松 みか（ドローン女子）、遠藤 灯和子、工藤 真菜（品川女子学院中等部 生徒）、吉田 桃子（慶應義塾大学大学院 院生）、高橋美江（地図イラストレーター・散歩師）

＜ 地図ワークショップ ＞「お台場を江戸切絵図で描いてみよう」

指導／講評 吉田 桃子さん（慶應義塾大学大学院）

最後のご挨拶・まとめ／ 滝沢由美子（地図情報センター）



太田 弘（慶應義塾、日本地図学会常任委員、企画委員会委員）

8. その他（広報等）

G空間EXPO2017 運営協議会

広報活動（公式WEBサイトの制作・配信）

■ G空間EXPO公式WEBサイト

公式Webサイトを制作し、8月日に公開した。（<http://www.g-expo.jp/>）



トップページに「G空間社会って、なに？」根源的な疑問に応えるページをリンク。



各プログラムへのリンクをトップに配置。



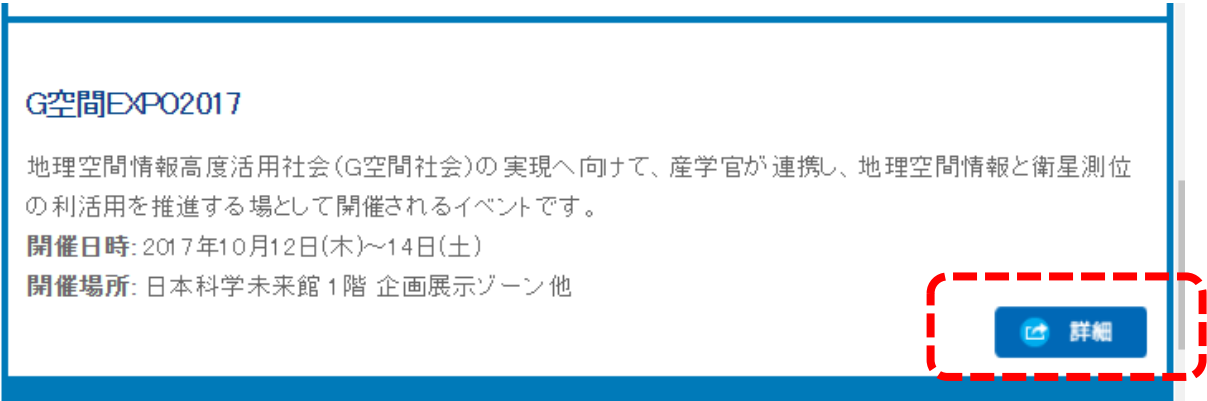
ステージプログラム等主要なコンテンツへのリンクは下方に大きく配置

■ 日本科学未来館との連携（公式WEB等）

日本科学未来館公式ホームページにおいて告知



公式ホームページ内の「イベント」の項目において告知



G 空間EXPO公式ページへリンク

インフォメーション

■ インフォメーションカウンター

- G空間EXPOプログラム配布及び各所案内等を行った。

- G空間EXPOメッセージゾーン → 1F 企画展示ゾーンa・b
- 地理空間情報フォーラム → 1F 企画展示ゾーンa・b
- Geoアクティティコンテスト → 展示：1F 企画展示ゾーンb
プレゼンテーション（13日）：1F 企画展示ゾーンb
表彰（14日）：1F 企画展示ゾーンb（メインステージ）
- Geoエデュケーションプログラム → 7階 コンファレンスルーム水星・火星・金星
- 講演・シンポジウム → 7階 未来館ホール、イノベーションホール、コンファレンスルーム 土星、
コンファレンスルーム 天王星

- アンケートのご案内

- 当日プログラムと同封してアンケート用紙を配布
- 記入済みアンケート用紙はインフォメーションにて回収
※メインステージ横の出入り口にアンケート記入コーナーを設置。そこにも回収BOXを設置。

- G空間情報フォーラムのパンフレット等の配布

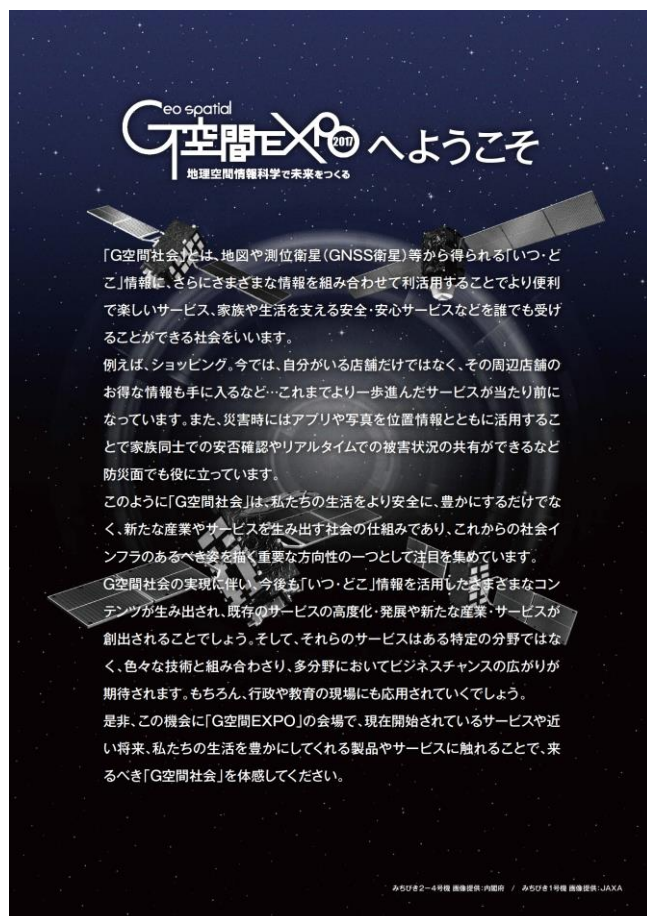
- 各種問い合わせの対応



趣旨説明パネル

■ G空間EXPO趣旨説明パネル

G空間EXPOの概要説明をパネル（B1サイズ）を作成し、インフォメーション横に設置した。



（内容）

「G空間社会」とは、地図や測位衛星（GNSS衛星）等から得られる「いつ・どこ」情報に、さらにさまざまな情報を組み合わせて利活用することでより便利で楽しいサービス、家族や生活を支える安全・安心サービスなどを誰でも受けることができる社会をいいます。

例えば、ショッピング。今では、自分がいる店舗だけではなく、その周辺店舗のお得な情報も手に入るなど、これまでより一歩進んだサービスが当たり前になっています。また、災害時にはアプリや写真を位置情報とともに活用することで家族同士での安否確認やリアルタイムでの被害状況の共有ができるなど防災面でも役に立っています。

このように「G空間社会」は、私たちの生活をより安全に、豊かにするだけでなく、新たな産業やサービスを生み出す社会の仕組みであり、これからの社会インフラのあるべき姿を描く重要な方向性の一つとして注目を集めています。

G空間社会の実現に伴い、今後も「いつ・どこ」情報を活用したさまざまなコンテンツが生み出され、既存のサービスの高度化・発展や新たな産業・サービスが創出されることでしょう。そして、それらのサービスはある特定の分野ではなく、色々な技術と組み合わせたり、多分野においてビジネスチャンスの広がりが期待されます。もちろん、行政や教育の現場にも応用されていくでしょう。

是非、この機会に「G空間EXPO」の会場で、現在開始されているサービスや近い将来、私たちの生活を豊かにしてくれる製品やサービスに触れることで、来るべき「G空間社会」を体感してください。

使用色の統一

■ G空間EXPO2017における使用色

各イベントで使用するテーマカラーは以下のとおりとした。



G空間EXPOメッセージゾーン

(adobeRGB: 212,47,26 sRGB:246,44,17 DIC-565)



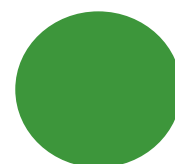
地理空間情報フォーラム

(adobeRGB:60,80,177 sRGB:46,79,181 DIC-222)



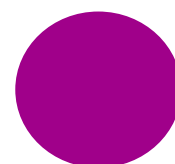
Geoアクティビティコンテスト

(adobeRGB:233,141,44 sRGB:255,142,31 DIC-83)



Geoエデュケーションプログラム

(adobeRGB:97,148,68 sRGB:61,150,59 DIC-N846)



講演・シンポジウム

(adobeRGB:136,0,134 sRGB:160,0,138 DIC-150B)



ステージ

(adobeRGB:79,84,100 sRGB:76,84,101 DIC-448)

付録 1 来場者アンケート

来場者アンケート -1

G空間EXPO2017ご来場者様 アンケート



本日は、G空間EXPO2017にご来場いただきありがとうございました。
今後の開催プログラムの検討等のため、アンケートにご協力よろしくお願い申し上げます。
結果は統計的に処理し、目的以外に利用することはありません。

G空間EXPO2017運営協議会

下記各欄の該当する□に✓を入れてください。

Q1. 参加された日時を教えてください。(複数回答可)

☐ 10/12 (木)	☐ 10/13 (金)	☐ 10/14(土)
------------------------------------	------------------------------------	-----------------------------------

Q2. どのような目的で参加されたのか教えてください。

☐ 情報収集	☐ 技術動向の調査	☐ 今後の勉強のため	☐ 趣味等の活動
☐ 常設展を見たついでに立ち寄った ☐ その他()			

Q3. どのイベントに参加されましたか？(複数回答可)

☐ G空間EXPOメッセージゾーン	☐ Geoアクティビティコンテスト	☐ 講演・シンポジウム
☐ 地理空間情報フォーラム	☐ Geoエデュケーションプログラム	

Q4. G空間EXPO2017のプログラムの内容や会場はいかがでしたか。

①プログラムの内容全般について				
☐ とても満足	☐ どちらかという満足	☐ どちらかという不満	☐ とても不満	☐ 不明
②会場のアクセス・快適性等について				
☐ とても満足	☐ どちらかという満足	☐ どちらかという不満	☐ とても不満	☐ 不明

Q5. 「G空間社会」とはどんな社会か、ご理解いただけましたでしょうか。

☐ よく理解できた	☐ 少し理解できた	☐ まだ、よく理解できない	☐ 全く理解できない
----------------------------------	----------------------------------	--------------------------------------	-----------------------------------

Q6. 今後、地方でG空間Expoの小規模版を開催するとしたら参加してみたいですか。

☐ 居住地等と同じ地方であれば参加したい	☐ 居住地等と同じ都道府県での開催であれば参加したい
☐ どちらかという東京で実施するG空間EXPOに参加したい	

裏面にもアンケートがございます。

来場者アンケート -2



Q7. あなたの性別・年齢について教えてください。

☐ 男性	☐ 女性				
☐ 20歳以下	☐ 20代	☐ 30代	☐ 40代	☐ 50代	☐ 60代以上

Q8. どちらから来られましたか。

☐ 北海道	☐ 東北	☐ 東京	☐ 東京以外の関東	☐ 甲信越	☐ 北陸	☐ 東海
☐ 近畿	☐ 中国	☐ 四国	☐ 九州	☐ 沖縄	☐ その他()	

Q9. ご職業を教えてください。(最も近いものをそれぞれお選びください)

☐ 測量・調査・設計	☐ 建設・コンサルタント	☐ 地図・GIS	☐ 製造(情報通信機器)
☐ 製造(その他)	☐ 情報サービス	☐ 情報通信	☐ 農林漁業・鉱業
☐ 交通・運輸	☐ ライフライン	☐ 公務員	☐ 教育
☐ マスコミ	☐ その他()		

Q10. G空間EXPO2017の開催を何でお知りになりましたか。(複数回答可)

☐ ホームページ	☐ チラシ	☐ ポスター	☐ SNS
☐ 新聞()	☐ 雑誌()	☐ 講師・知人	☐ メールマガジン
☐ その他()			

Q11. 今後、実施を希望されるイベントについてお知らせ下さい。

☐ (G空間関連の)機関、企業による展示	☐ 講演・シンポジウム
☐ フィールドワーク・地図教室等体験イベント	☐ 研修・ワークショップ等の参加型イベント
☐ その他	
その他、ご意見やご提案がございましたらご記入ください。(自由回答欄) 	

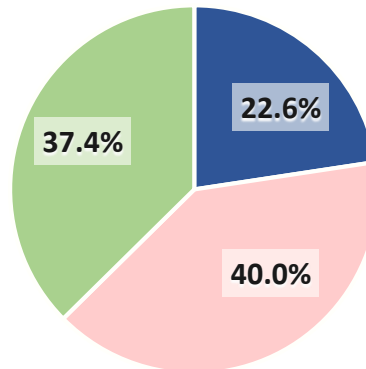
ご協力ありがとうございました。

アンケート集計 -1

(回答 115者)

1. 来場日

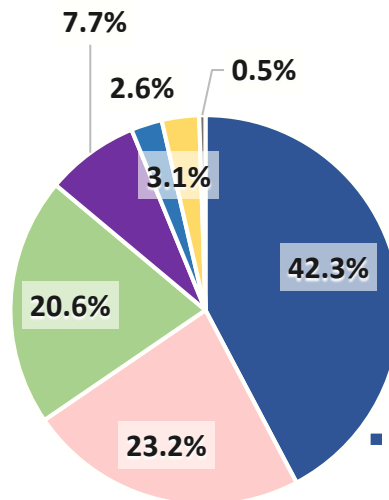
12日（木）	26
13日（金）	46
14日（土）	43
総数	115



■ 12日（木） ■ 13日（金） ■ 14日（土）

2. 来場の目的（複数回答）

情報収集	82
技術動向の調査	45
今後の勉強のため	40
趣味等の活動	15
常設展を見たついでの立ち寄り	5
その他	6
無回答	1
総数	194



■ 情報収集
■ 技術動向の調査
■ 今後の勉強のため
■ 趣味等の活動

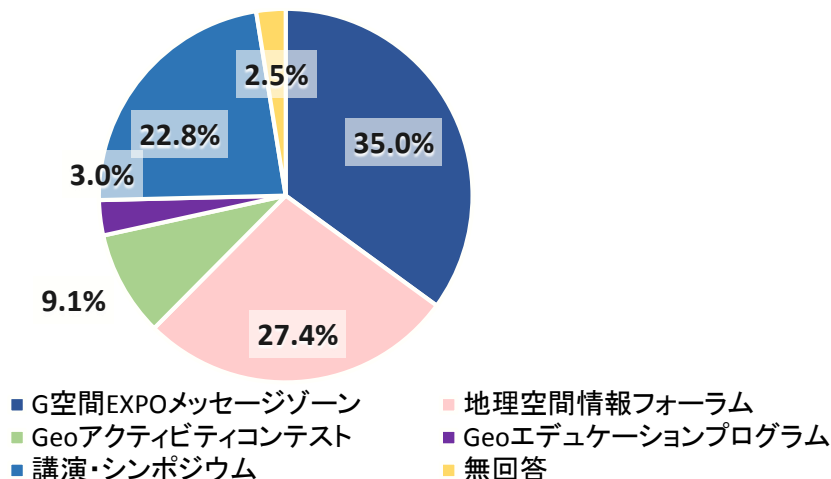
その他の回答

- ・修学旅行（4人）
- ・翌月開催分（鹿児島）の事前視察
- ・毎年の定点観測

アンケート集計 -2

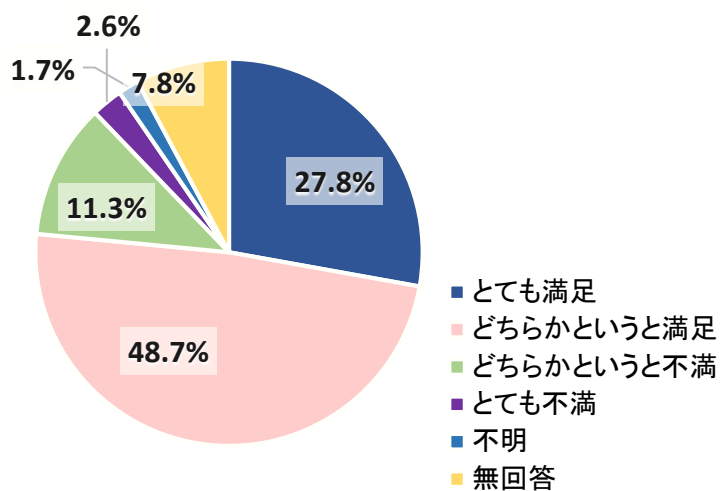
3. 参加したイベント（複数回答）

G空間EXPOメッセージゾーン	69
地理空間情報フォーラム	54
Geoアクティビティコンテスト	18
Geoエデュケーションプログラム	6
講演・シンポジウム	45
無回答	5
総数	197



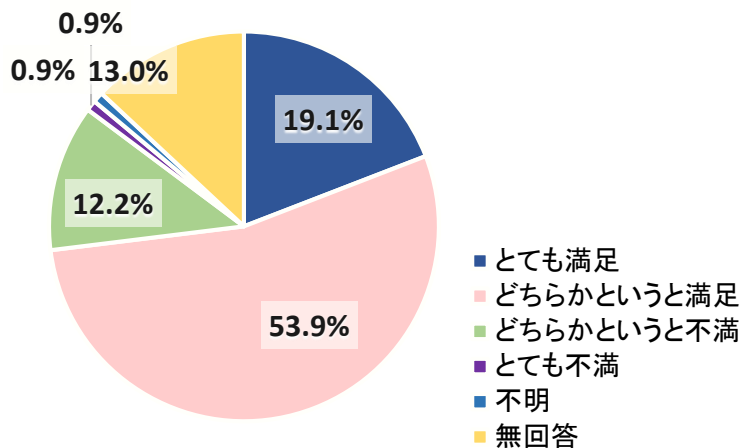
4-①プログラム内容全般について

とても満足	32
どちらかという満足	56
どちらかという不満	13
とても不満	3
不明	2
無回答	9
総数	115



4-②会場のアクセス・快適性について

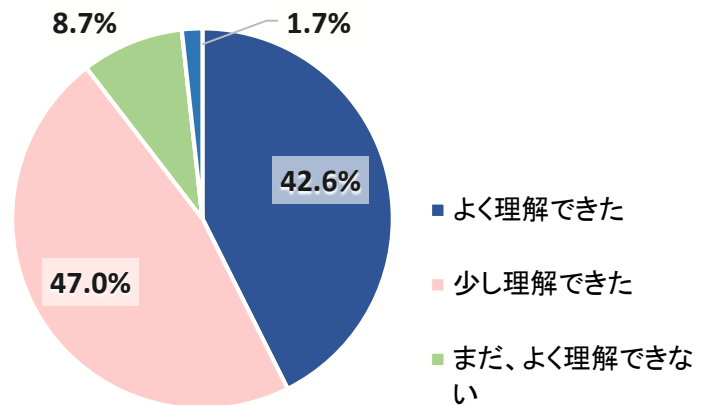
とても満足	22
どちらかという満足	62
どちらかという不満	14
とても不満	1
不明	1
無回答	15
総数	115



アンケート集計 - 3

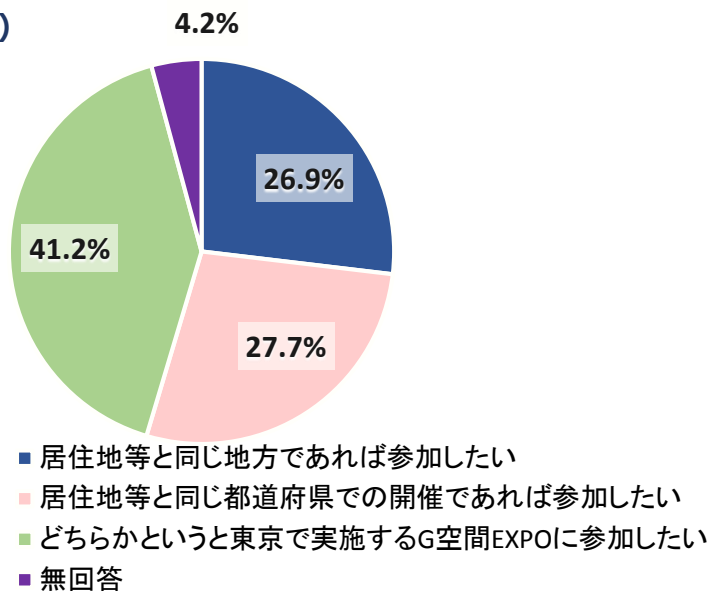
5.「G空間社会」への理解について

よく理解できた	49
少し理解できた	54
まだ、よく理解できない	10
全く理解できない	0
無回答	2
総数	115



6.地方でG空間EXPO開催するなら（複数回答）

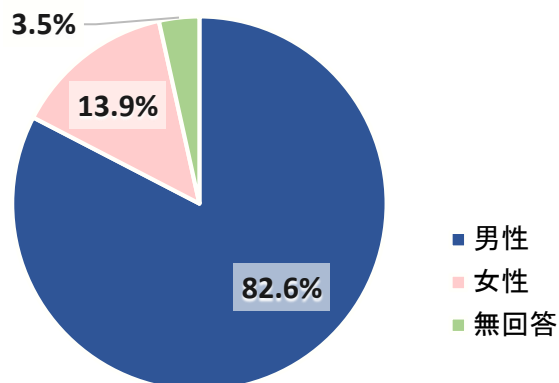
居住地等と同じ地方であれば参加したい	32
居住地等と同じ都道府県での開催であれば参加したい	33
どちらかというと東京で実施するG空間EXPOに参加したい	49
無回答	5
総数	119



アンケート集計 - 4

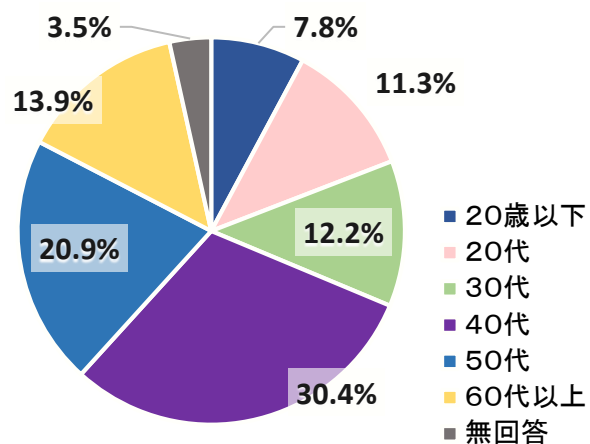
7-①.性別

男性	95
女性	16
無回答	4
総数	115



7-②.年齢

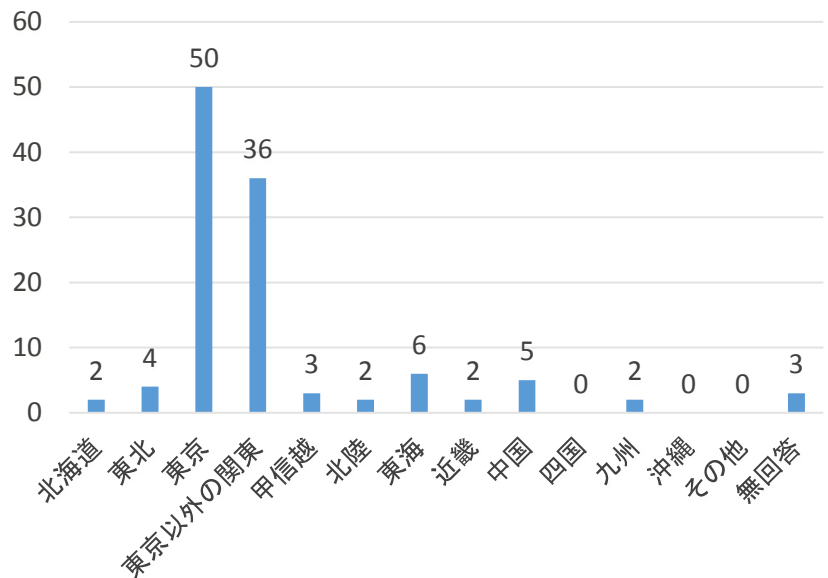
20歳以下	9
20代	13
30代	14
40代	35
50代	24
60代以上	16
無回答	4
総数	115



アンケート集計 - 5

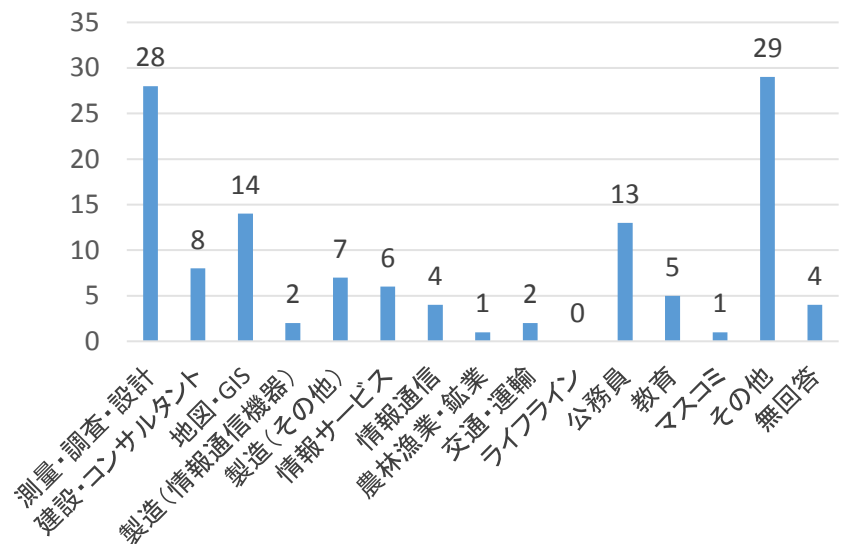
8. 来られた地域

北海道	2
東北	4
東京	50
東京以外の関東	36
甲信越	3
北陸	2
東海	6
近畿	2
中国	5
四国	0
九州	2
沖縄	0
その他	0
無回答	3
総数	115



9. 職業

測量・調査・設計	28
建設・コンサルタント	8
地図・GIS	14
製造（情報通信機器）	2
製造（その他）	7
情報サービス	6
情報通信	4
農林漁業・鉱業	1
交通・運輸	2
ライフライン	0
公務員	13
教育	5
マスコミ	1
その他	29
無回答	4
総数	124



その他の回答

- ・学生（9人）
- ・大学生
- ・高校生
- ・宇宙研究者
- ・土地家屋調査士
- ・リモートセンシング
- ・測量機器販売
- ・軍事

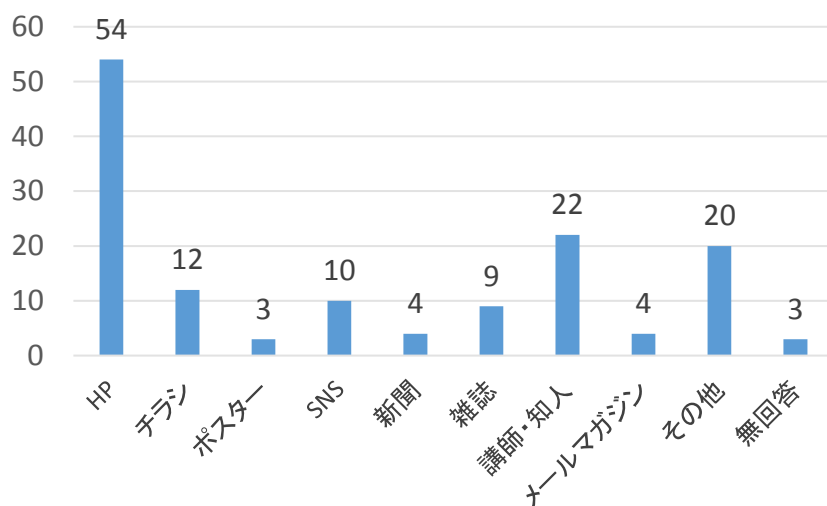
アンケート集計 - 6

10.開催を知ったきっかけ

HP	54
チラシ	12
ポスター	3
SNS	10
新聞	4
雑誌	9
講師・知人	22
メールマガジン	4
その他	20
無回答	3
総数	141

※雑誌名（測量 8 人）

※新聞名（建通新聞 2 人）

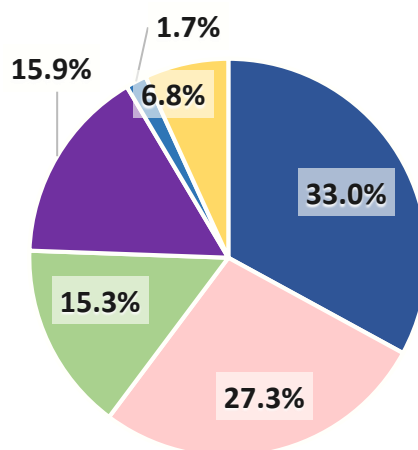


その他の回答

- ・社内連絡
- ・取引先
- ・研究機関
- ・情報誌
- ・会社(2名)
- ・調査士会
- ・学校(2名)
- ・有識者
- ・業界
- ・未来館HP
- ・通りがかり(2名)
- ・孫

11.今後、希望されるイベント

(G空間関連の)機関、企業による展示	58
講演・シンポジウム	48
フィールドワーク・地図教室等体験イベント	27
研修・ワークショップ等の加型イベント	28
その他	3
無回答	12
総数	176



- (G空間関連の)機関、企業による展示
- 講演・シンポジウム
- フィールドワーク・地図教室等体験イベント
- 研修・ワークショップ等の加型イベント
- その他
- 無回答

アンケート集計 - 7

11-②その他のご意見やご提案

昔に比べて、出展会社が減った。もっと出展してほしい。3DのソフトやUAVなど。

毎年、プログラムが分かりにくいですね。分かり易ければ、参加者は増えると思います。

WEBパンフレットともフォーラム、エデュケーションプログラム、シンポジウム、全てバラバラで見にくいので、1つにまとめたものを作成してほしい。

測量協会のイノベーション大会と同時開催にできないのか。

高校生の方が開発したアプリのブースを拝見しました。これからも若い世代の方と協力をして開発、技術向上できる環境を作っていけたらと思いました。最新の技術にふれる機会、とても勉強になりました。

高校生の登壇、期待します。(防災アプリブース)

B向けが多いように感じた。C向けの展示があると周知につながり、今後のイベント振興につながると感じた。今の時代では、オープンデータやAPIを使うと割と容易に情報を自らが分かり易い形に変換できる。そのようなブース、セミナーを開いてもらえると私としてはうれしい。

いつも11月の開催だったので参加しやすかったのですが、今年は10月だったので、業務と重なってしまい、一番聞きたかった講演が聞けませんでした。ホームページでの情報がいつもぎりぎりなのを何とかしていただきたいです。

展示ゾーンの規模が小さくなり、出展者も展示内容もマンネリ化してきた。QZSSのサービス開始直前で、今年はもっと新商品、新サービスの展示があると期待していた。

勉強になりました。

高校でGISが入ってくるとのこと。アイデアを紹介していただけるとありがたいです。

毎年来ていますが、参加企業が同じです。ブースのスペースも空いていますので、多くの企業の参加を期待します。

もう少し多様な人が集まると良いかと思います。

海洋の測量船見学は初めてでしたが、勉強になりました。

一般向けするイベントも含め、バランスをとってほしいです。個人的にはPokemonGoと地理空間情報の講演が良かったです。

付録 2 開催実績

G空間 EXPO 開催実績

名 称	会 期	会 場	主 催	来場者数
1 G空間EXPO	平成22年 9月 19(日)～22(火)	パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市) (10,000㎡)	G空間EXPO 実行委員会	36,819人
2 G空間EXPO 2012	平成24年 6月 21(木)～23(土)	パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市) (6,700㎡)	G空間EXPO 実行委員会	18,143人
3 G空間EXPO 2013	平成25年11月 14(木)～16(土)	日本科学未来館 (東京都江東区) (約2,000㎡)※	G空間EXPO2013 運営協議会	17,584人 (展示会等来場者)
4 G空間EXPO 2014	平成26年11月 13(木)～15(土)	日本科学未来館 (東京都江東区)	G空間EXPO2014 運営協議会	20,311人 (展示会等来場者)
5 G空間EXPO 2015	平成27年11月 26(木)～28(土)	日本科学未来館 (東京都江東区)	G空間EXPO2015 運営協議会	18,856人 (展示会等来場者)
G空間EXPO 2016	平成28年11月 24(木)～26(土)	日本科学未来館 (東京都江東区)	G空間EXPO2016 運営協議会	19,138人 (展示会等来場者)
6 G空間EXPO 2016in仙台	平成28年10月 5(水)	仙台国際センター (仙台市青葉区)		128人
G空間EXPO 2016in大阪	平成28年10月 24(月)・25(火)	ATCホール (大阪市住之江区)		150人
G空間EXPO 2017	平成29年10月 12(木)～14(土)	日本科学未来館 (東京都江東区)	G空間EXPO2017 運営協議会	20,450人 (展示会等来場者)
7 北陸G空間 フォーラムin新潟	平成29年9月 20(水)	朱鷺メッセ (新潟市中央区)		94人
九州G空間 フォーラムin鹿児島	平成29年11月 8(水)・9(木)	かごしま県民 交流センター (鹿児島市)		205人

※日本科学未来館会場面積はG空間EXPO2013以降変化なし。

G空間EXPO2017 開催報告書

発 行 G空間EXPO2017 運営協議会事務局
(国土交通省国土政策局国土情報課内)

03-5253-8353

発行日 平成 30 年 4 月 2 日

